

平成 19 年度
2 回生進級時アンケート
報告書



2 0 0 8

高等教育研究開発推進機構

高等教育研究開発推進センター・

全学共通教育カリキュラム企画開発部門

目 次

はじめに——調査の趣旨と概要.....	1
1 学習意欲などの変化.....	4
1. 1 学習意欲の変化.....	4
1. 2 出席コマ数の変化.....	5
1. 3 授業外学習時間の変化.....	5
2 成績評価への納得度.....	6
2. 1 成績評価全体への納得度.....	6
2. 2 成績評価に納得できない理由.....	8
2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容.....	10
3 「満足した科目」「不満だった科目」.....	11
3. 1 「満足した科目」とその理由.....	11
3. 1. 1 科目群別の集計.....	11
3. 1. 2 「満足した理由」の分析.....	12
3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容.....	14
3. 2 「不満だった科目」とその理由.....	17
3. 2. 1 科目群別の集計.....	17
3. 2. 2 「不満だった理由」の分析.....	18
3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容.....	20
4 全学共通科目への期待.....	24
5 期待は実現されたか.....	26
6 今後の全学共通教育への要望.....	28
6. 1 項目別集計.....	28
6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容.....	30
7 自由記述.....	32
7. 1 総合人間学部.....	32
7. 2 文学部.....	34
7. 3 教育学部.....	38
7. 4 法学部.....	40
7. 5 経済学部.....	45
7. 6 理学部.....	48
7. 7 医学部.....	52
7. 8 薬学部.....	54
7. 9 工学部.....	55
7. 10 農学部.....	66
8 まとめ——「対話を根幹とした自学自習」に向けて.....	71
【資料】平成19年度2回生進級時アンケート(KULASIS 掲載内容)	75

はじめに——調査の趣旨と概要

高等教育研究開発推進機構が学部新2回生全員を対象として実施している「2回生進級時アンケート」は、今回、平成19年度（平成18年入学生対象）で第4回目となる。この調査の目的は、学生が入学後1年間の大学生活の中で京都大学の教育に対してどのような感想を抱いたかについて2回生進級時点での意見を聞き、今後の京都大学の教育を改善・充実してゆくための重要な資料とすることにある。

この調査の前提には、平成15年度より実施している「新入生アンケート」がある。これは、新入生ガイダンスの際、入学にあたっての抱負とこれからの期待などを学生に自由に記述してもらうものである。「2回生進級時アンケート」では、1年前の「新入生アンケート」の回答を学生に返却し、自分の入学当時の抱負・期待を読み返しつつ、1年間の全学共通教育を中心とした学習を振り返って、どんなことを感じあるいは考えたかについて率直な意見を表明してもらうよう求めている。

調査方法は、今年度から従来のようにアンケート用紙を配布・回収するのではなく、KULASIS（全学共通教育教務情報システム）上でおこなう方式に変更した。平成19年4月、各学部新2回生が1回生後期の成績確認のためKULASISにログインした際、アンケートへの協力願いを掲示し、回答フォームに入力してもらうという方式をとった¹。この方式を採用した目的は、第1に学生の負担を軽減することにより提出率の向上を図ること、第2にデータ処理の簡便化を図ることである。ただしこの方式では、紙媒体による調査と比較して、原理的に回答者（学生）の匿名性を確保できないのではないかという疑義も生じうる。そのような疑義をできるだけ解消するため、回答フォームのページに、データ処理においては厳密に回答者の匿名性を保持すること、「満足した科目」「不満だった科目」として挙げた科目の教員に回答者の個人情報が渡ることは決してないということを明記した。

提出状況は表0-1に示したとおりであり、提出者総数は957名、提出率は32.2%であった。前年度（平成18年度）の提出率は26.5%であったので、5.7ポイント上昇している。少なくとも提出率に関する限り、KULASIS利用方式を採用したメリットが明確に表れているといえよう。なお、回答者の学部別人数・構成比は図0-1に示したとおりである。

¹ アンケート全文は本報告書の末尾に資料として添付した。

表0-1 平成19年度2回生在籍者数・アンケート提出者数

学部	在籍者数(2007/4/1現在)			提出者数	提出率
	計	男	女		
総合人間学部	128	85	43	47	36.7%
文学部	220	124	96	63	28.6%
教育学部	62	32	30	22	35.5%
法学部	349	269	80	106	30.4%
経済学部	260	212	48	66	25.4%
理学部	310	285	25	118	38.1%
医学部	279	163	116	56	20.1%
薬学部	87	63	24	31	35.6%
工学部	967	902	65	343	35.5%
農学部	308	199	109	105	34.1%
合計	2,970	2,334	636	957	32.2%

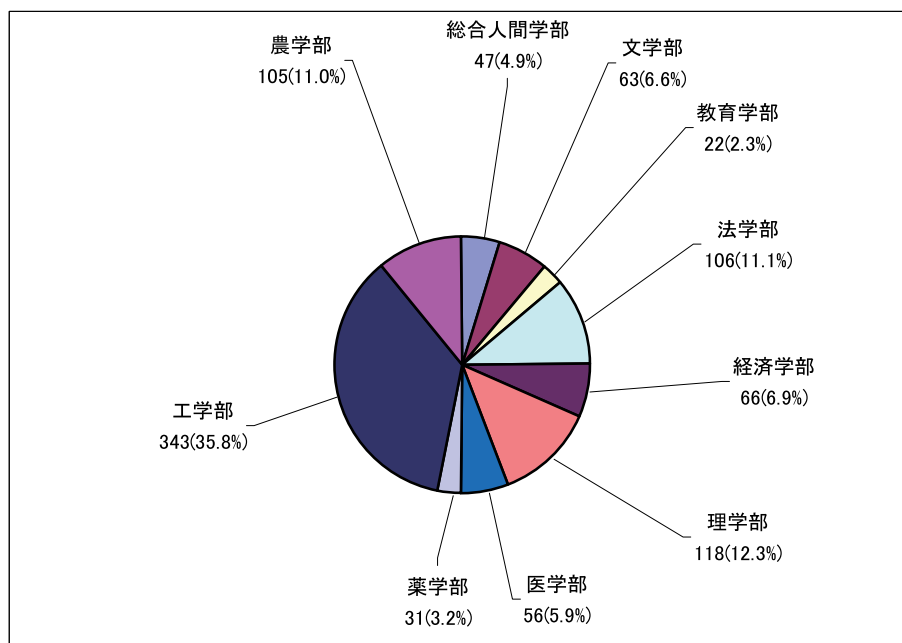


図0-1 学部別人数・構成比

以下、本報告書では、原則としてアンケートの設問順に回答の集計結果および自由記述の内容を示しつつ、簡単なコメントを添えていきたい²。統計的結果については前回(平成18年度)、前々回(平成17年度)と比べて顕著な差がみられないのでなるべく簡潔な報告にとどめ、昨年度と同様に、いわば学生の「生の声」を最大限に伝えるという意味で、自由記述の内容を原則としてすべて掲載することにした³。そして最後に「まとめ」で全体的な考察をおこなう。

新学期の大変忙しい中、アンケートに協力してくれた学生諸君に謝意を表したい。

² いくつかの設問については、集計を回答者の所属学部(「文系」「理系」「総合人間学部」)別にもおこなっている。昨年度までの紙媒体による調査では、回答者に所属学部を記入させるのみならず、総合人間学部学生には「文系」「理系」の別を記入させていた。今回、KULASISを利用する方式を採用するにあたり、回答者の学部・学科コードも併せて集計できることから、上記の記入を省略したが、総合人間学部の系分属は2回生の終了時に行われ、所属コードからは文系・理系の判別が行えないことが調査終了後に判明した。このため、母数としては少数になってしまうものの、総合人間学部を別立てとせざるをえなかった。来年度からは、従来どおり、総合人間学部学生には「文系」「理系」の別を記述させるよう変更する予定である。

³ ただし教員個人名および一部の科目名は伏せ字などを用いて匿名化した。

1 学習意欲などの変化

問1 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在までに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

(学習意欲) 5. 非常に意欲あり 4. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない
2. あまり意欲なし 1. まったく意欲なし

(作成例)

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	5	15 コマ	1.5 時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開始	4	4 コマ	3 時間
後期半ば	4	〃	〃
現在	1	12 コマ	

*あまり深く考えず「平均」「おおよそ」で記入してください

*現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

1. 1 学習意欲の変化

5つの時期を通しての学生の学習意欲の変化を全学部、文系、理系の別に平均値でみると、図1-1のようになった。全体として、入学当初にはかなり高かった学習意欲が、時期が進むにつれて少しずつ低下し、2回生に進級した現在では再び高まるという推移がみられる。

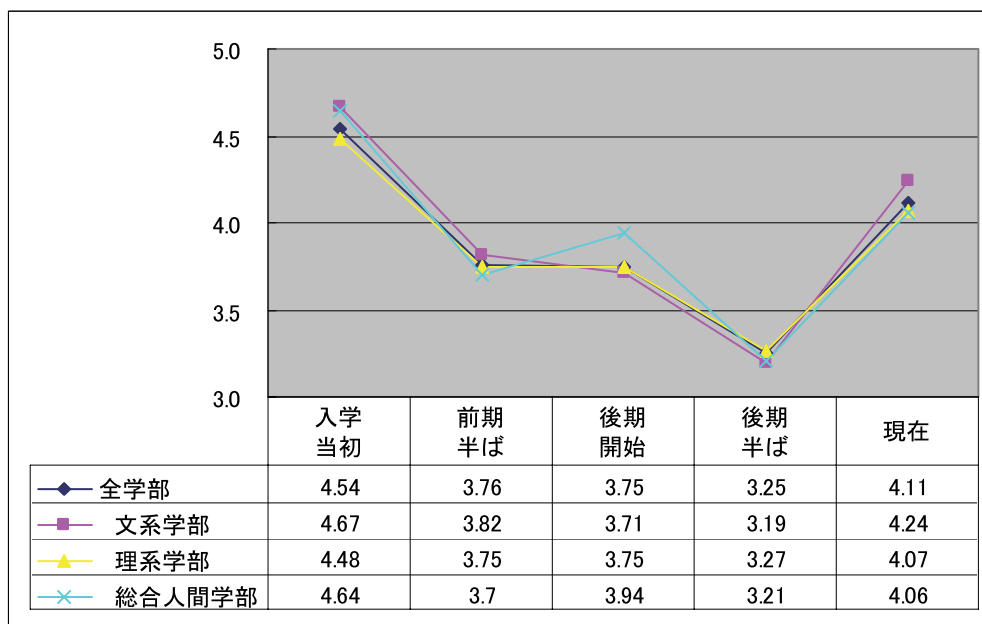


図1-1 学習意欲の変化

1. 2 出席コマ数の変化

同様に、出席コマ数の変化は図1-2のようになった。入学当初は平均17~19コマ出席していたのが、徐々に減少し、後期半ばには平均11~13コマ、2回生初めの現在は13~14コマとなっている。1回生の4つの時期では、予想されるとおり、いずれも理系学部生のほうが文系学部生より出席コマ数が多い。

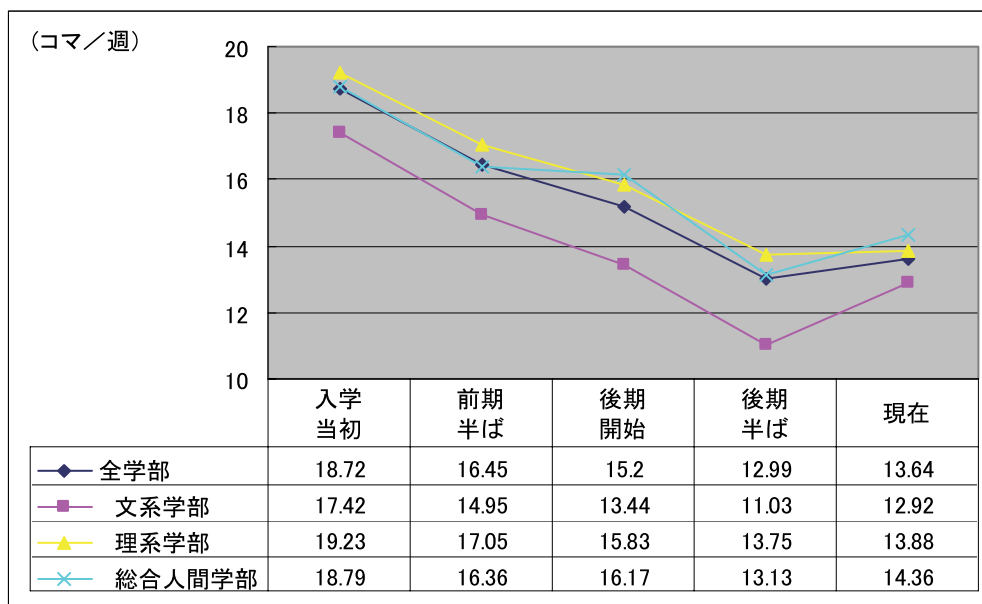


図1-2 出席コマ数の変化

1. 3 授業外学習時間の変化

同様に、授業外学習時間の変化は図1-3のようになった。出席コマ数が徐々に減少しているのに対し、授業外学習時間は、どの学部の学生も入学当初から後期開始時にかけて漸減した後、後期半ばには増加に転じ、2回生進級時点で大きく増加していることがわかる。

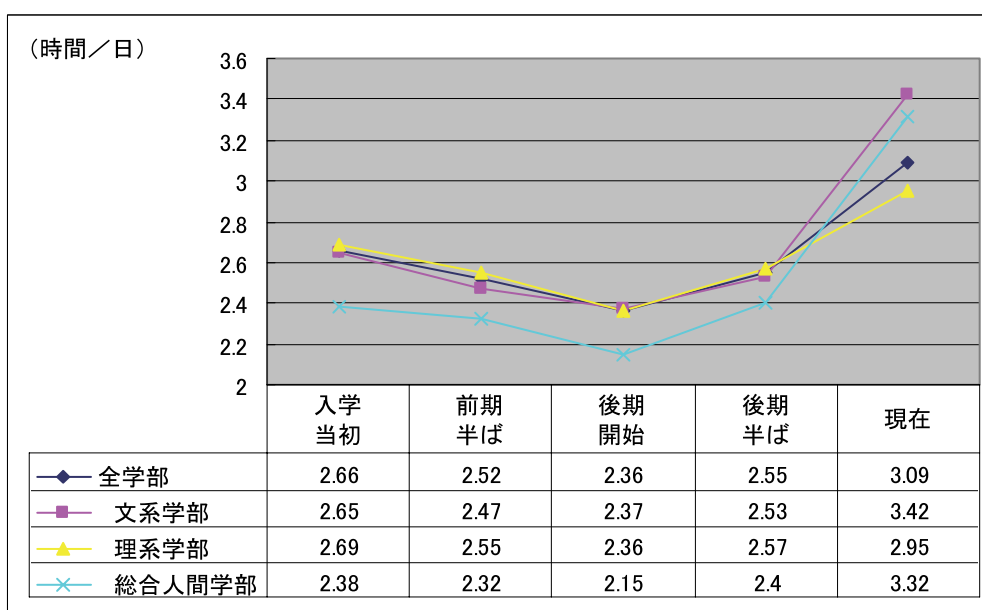


図1-3 授業外学習時間の変化

2 成績評価への納得度

- 問2 1回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします。
- A. 全体として、自分の成績評価に納得していますか。
- | | |
|------------------|------------------|
| 1 納得している | 2 どちらかといえば納得している |
| 3 どちらかといえば納得できない | 4 納得できない |
- B. A. で3または4を選んだ人にお尋ねします（1または2を選んだ人は問3に進んでください）。成績評価に納得できなかった理由は何ですか。あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。
- 1 成績評価が厳しすぎる
 - 2 成績評価が甘すぎる
 - 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていなかった
 - 4 成績評価の基準・方法が不公正である
 - 5 その他（自由記述）
- 上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～5から選択）

2. 1 成績評価全体への納得度

1回生時の全学共通科目の成績評価への全体としての満足度は、図2-1-1のとおりであり、「納得している」「どちらかといえば納得している」をあわせると87.4%となる。この数字を見る限り、全学共通科目の成績評価全体に対しては、大半の学生がほぼ納得しているとみてよいだろう。

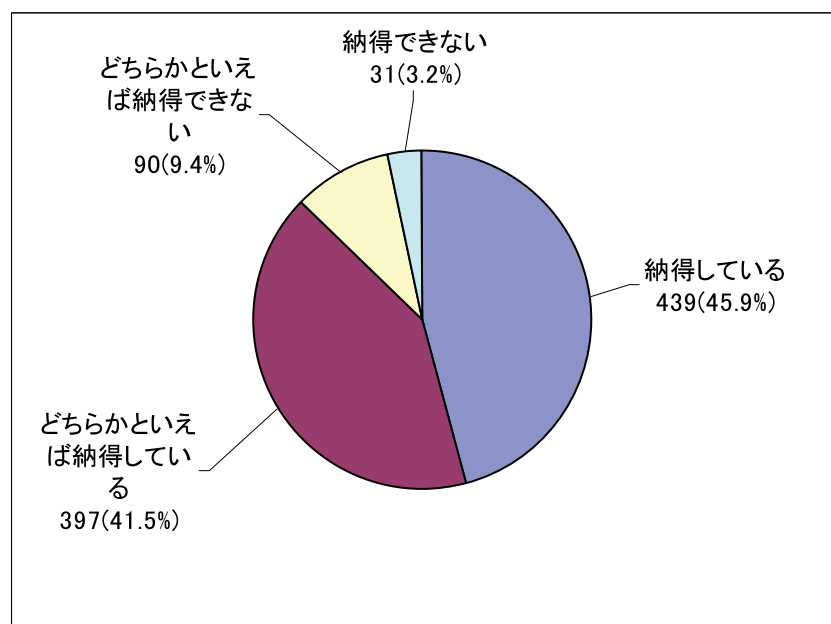


図2-1-1 成績評価全体への納得度（全体）

回答学生の学部別に集計すると図2-1-2, 2-1-3, 2-1-4のようになり、「納得している」比率が文系学部生では54.5%に対し理系学部生では42.3%と、10ポイント以上の差が開いていることが注目される（総合人間学部生はその中間に位置する）。すなわち、成績評価全体への納得度は、理系学部生よりも文系学部生のほうが高いことがわかる。

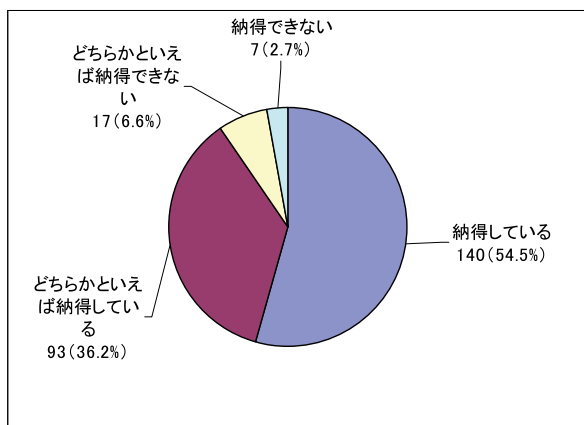


図2-1-2 成績評価全体への納得度（文系）

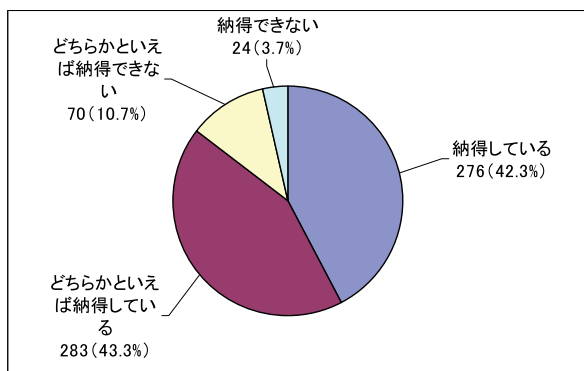


図2-1-3 成績評価全体への納得度（理系）

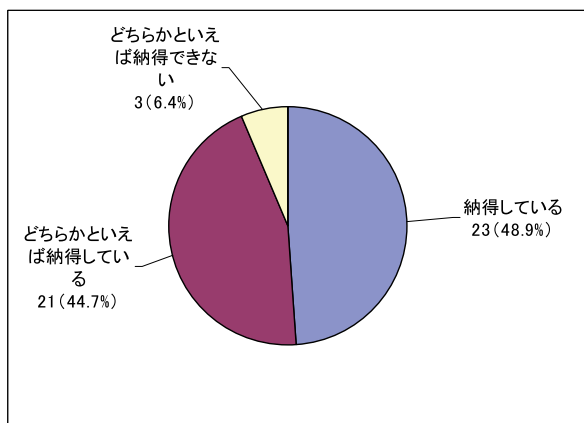


図2-1-4 成績評価全体への納得度（総人）

2. 2 成績評価に納得できない理由

全体として、自分の成績評価に「納得できない」または「どちらかといえば納得できない」と回答した学生に、その理由を尋ねた結果が、図2-2-1である。最重要項目（1つだけ選択）においても任意選択項目（複数選択）においても、「成績評価の基準・方法が明確に示されていなかった」が最も多く（61名、全回答者の6.4%）、ついで「成績評価が厳しすぎる」（45名、同4.7%）となっている。

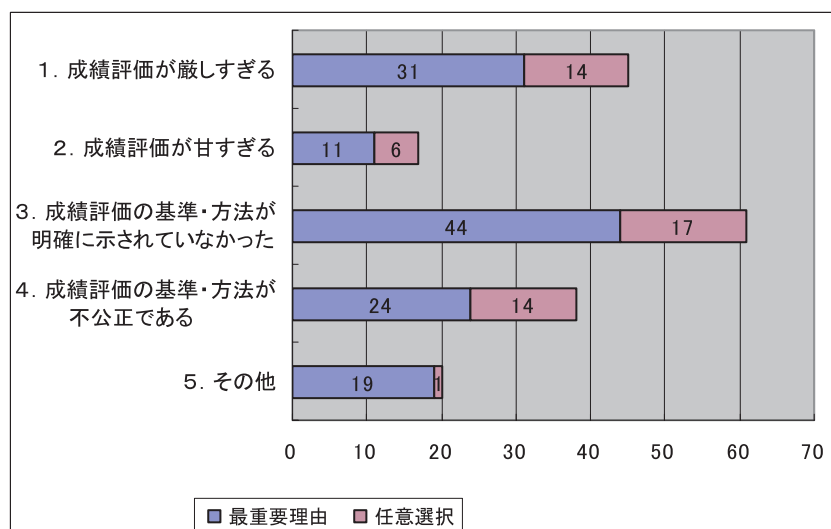


図2-2-1 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計（全体）

回答者の文系・理系別にみると図2-2-2、2-2-3のようになり、「成績評価の基準・方法が明確に示されていなかった」が最多である点は変わらないが、「成績評価が厳しすぎる」は、文系学部生よりも理系学部生のほうがはるかに多く挙げていることが注目される（総合人間学部生は計4名と少数のため省略）。

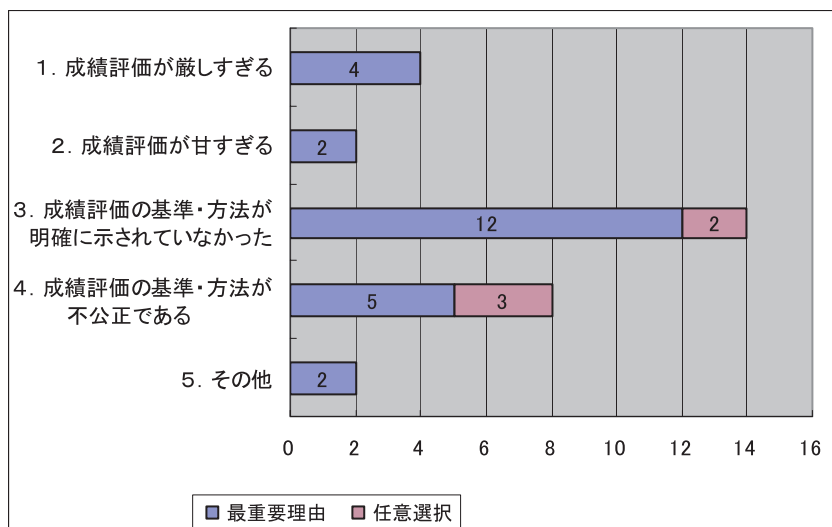


図 2-2-2 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計（文系）

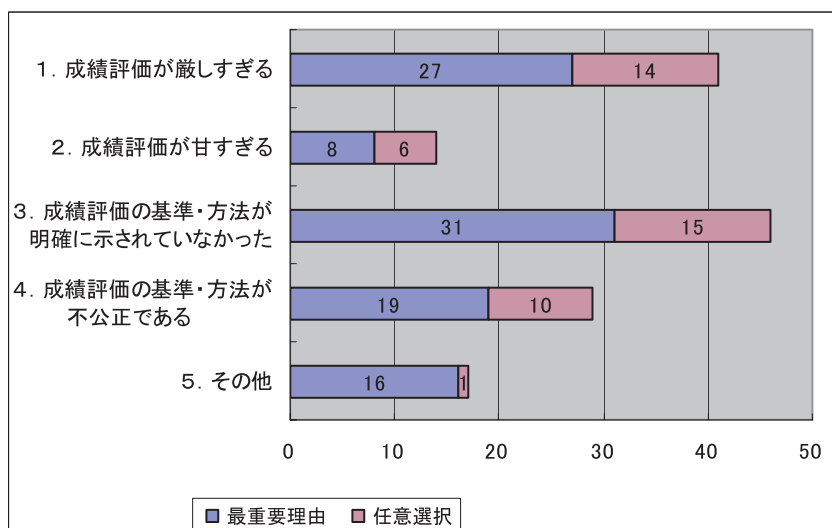


図 2-2-3 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計（理系）

2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容

「成績評価に納得できない理由」の「その他」の記述内容は下記のように多様であるが、「自分をもっと努力すべきだった」など、自身の責任に言及する学生が何人かいるのは注目される。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- ◎成績表に可や不可とだけ記すのではなく、点数を明確に示してほしかった。【経済・男】
- ◎自分の責任。【理・男】
- ◎科目による。【工・男】
- ◎特にレポート課題に対しての評価がわからない、採点基準がわからない。【工・男】
- ◎頑張った授業が不可で、さぼり気味の授業が単位ありだったりした。【工・男】
- ◎同一教科でも講師によって難易度が非常に異なる。【工・男】
- ◎自分に甘すぎる。【工・男】
- ◎自分をもっと努力すべきだった。【工・男】
- ◎教える気のない教官がいる。【工・男】
- ◎①講義に全て出席しても試験は全く講義と関係ない内容であった。②成績評価が客観的な評価ではなかったと思う。【農・男】
- ◎がんばった講座の評価が悪く、いい加減だった講座で評価がよかったから。【農・女】
- ◎自分のふがいなさに納得できない。【農・男】
- ◎適当にやりすぎた。【総人・男】
- 成績評価が明らかに甘いのに[優]が取れない不甲斐無い自分自身に嫌気がさす。【農・男】

3 「満足した科目」「不満だった科目」

3. 1 「満足した科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A (満足した科目)

あなたが特に満足した科目をいくつか思い浮かべてください(もし満足した科目がなければBに進んでください)。

下記の表に、それらの科目名(3つまで)をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください(A・B群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください)。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：(自由記述)

登録群：(A・B・C・Dから選択)

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他(自由記述)

上記のうち、最も重要なものを選んでください(1～6から選択)

(以下、科目2、3も同様)

3. 1. 1 科目群別の集計

「満足した科目」としてあげられた科目(総数延べ1477科目)を、科目群別(および回答者の所属学部別)に集計すると図3-1-1のようになった⁴。全体では、A群科目が5割弱、B群科目が4割弱と、この二つの科目群で計8割強を占めている。文系学部生ではA群科目が6割強と圧倒的に多くを占め、B群科目は2割強にとどまっているのに対し、理系学部生ではB群科目が4割強と最多であり、A群科目はやや少なく、ほぼ4割である。この数字を見る限り、文系学部生はA群科目に満足している比率が高く、理系学部生はB群科目に満足している比率が高いという常識的予想を裏づける結果となっている。ただ、理系学部生がA群科目に満足している比率と比較して、文系学部生がB群科目に満足している比率がとくに低いことは注目される。

⁴ ポケットゼミはその性格上、他の科目とは異なる点が多いので、A～D群の区別によらず別立てとした。

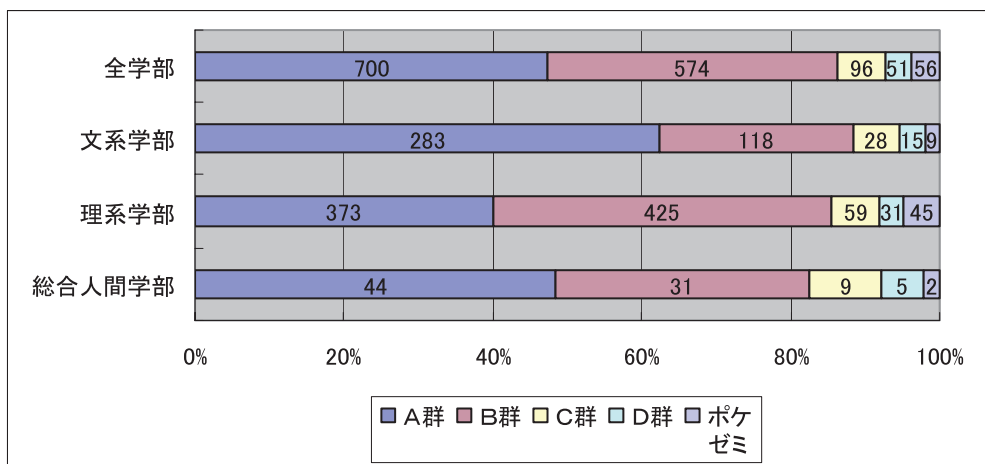


図 3-1-1 「満足した科目」科目群別科目数（構成比）

3. 1. 2 「満足した理由」の分析

次に、「満足した理由」の各項目別の集計結果を図3-1-2に示した。最重要項目（1つだけ選択）においても、任意選択項目（複数選択）を加えた延べ数においても、「授業の内容が興味深かった」が最多となっている。

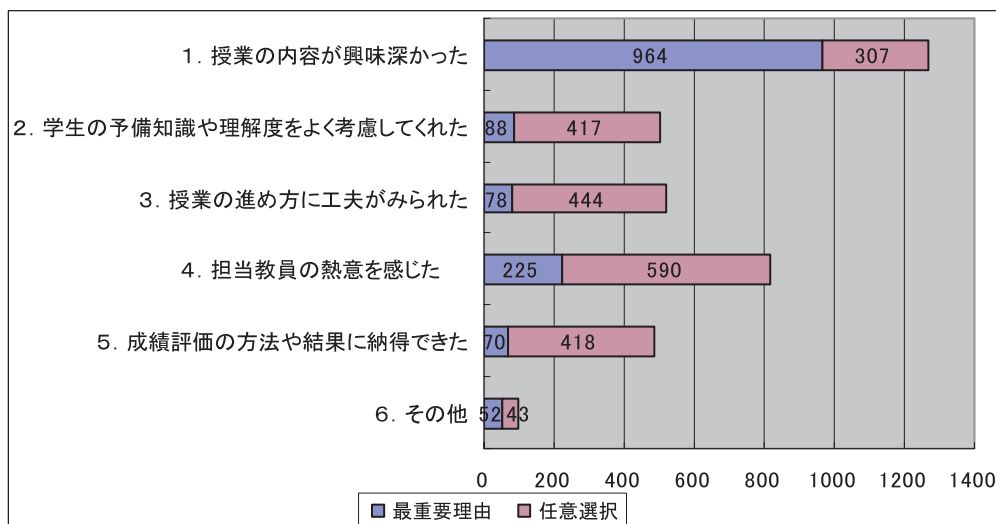


図 3-1-2 「満足した理由」項目別集計（全体）

回答者の所属学部別に集計すると図3-1-3、3-1-4、3-1-5のようになり、回答傾向にあまり顕著な差はみられなかった。

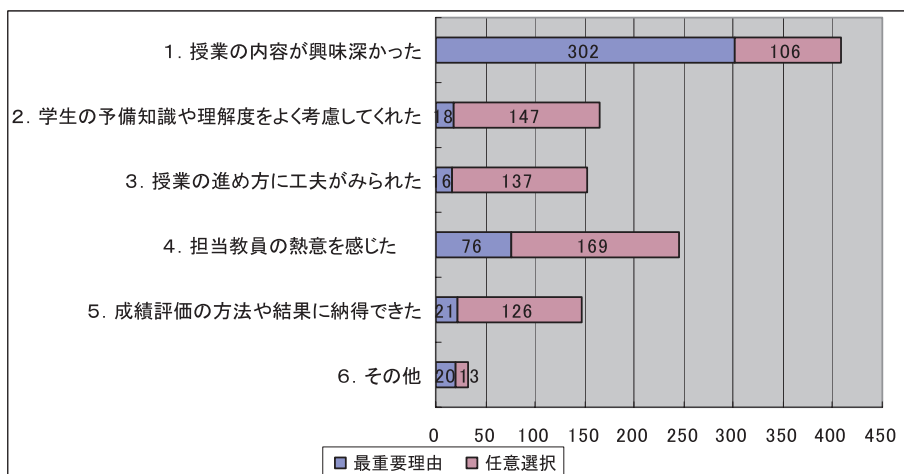


図 3-1-3 「満足した理由」項目別集計（文系）

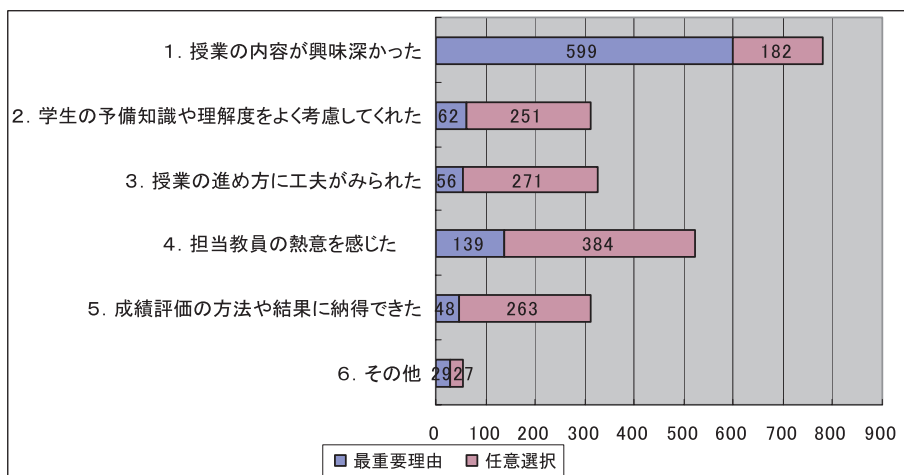


図 3-1-4 「満足した理由」項目別集計（理系）

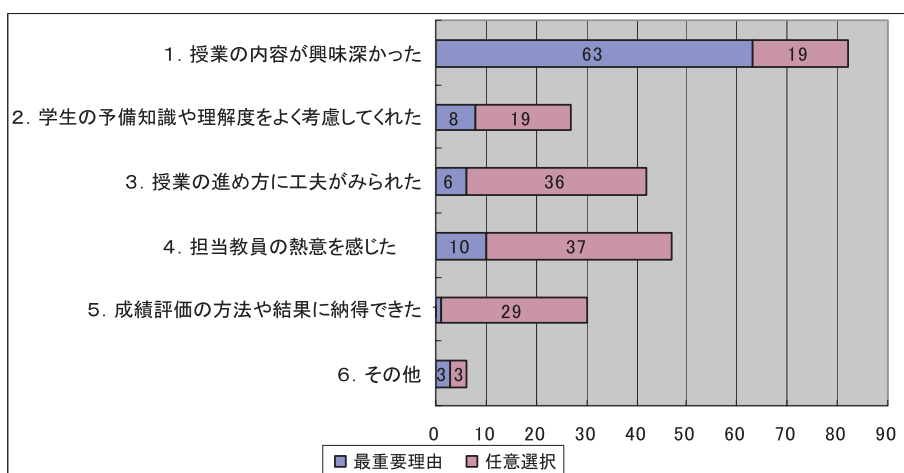


図 3-1-5 「満足した理由」項目別集計（総人）

3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容

「満足した理由」の「6 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。その記述内容は次のように多様であるが、教員の人間的魅力や、教員との（あるいは学生間の）交流を評価する記述が比較的多くみられた。以下、A群、B群、C群、D群、およびポケットゼミの別に、記述内容を掲載する。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

■ A群科目

- ◎友達ができた。【文・男】
- ◎ゼミを体験できたことが自分にとってはプラスだった。【文・女】
- ◎先生が素敵だった。【文・女】
- ◎先生の講義に感動。国語国文学に進もうかと本気で思いました。【文・女】
- ◎担当教員の話が面白く、裁判官が日頃何をしているか垣間見ることができた。【法・男】
- ◎教員が学生に対し毅然とした態度でのぞんでいた。【経済・男】
- ◎教員が史学の面白さを学生に伝えようとする姿勢がすばらしかった。【経済・男】
- ◎神【経済・男】
- ◎成績評価が甘い。【理・男】
- ◎民間企業のリレー講義だったが、みな話がうまく、その業界のことがよくわかった。【理・男】
- ◎漢文云々でなく、思想内容に重きをおいてよかった。解説もわかりやすかった。【医・男】
- ◎先生が面白かった。【医・男】
- ◎他の学部の友達ができた。【医・女】
- ◎いろいろな考えに触れることが出来た。議論が面白かった。【工・男】
- ◎実用的な知識を身につけられた。【工・女】
- ◎他の場所では聞けない話なのでよかった。【農・女】
- ◎先生のお話してくれる内容が面白かった。【総人・女】
- ◎先生の話がおもしろかった。【総人・女】
- 教員の持つ知識の豊富さに驚いた。【文・男】
- 学問の取り組み方について考えさせられた。【文・女】
- レジュメが体系付けられていて、分かり易かった。【教育・男】
- レベルが高かった。【教育・男】
- 精神科医の方の話が聞けて、とても興味深かったです。【教育・男】
- とても分かりやすくて、ためになった。【法・男】
- 実用性が高かった。【法・男】
- アメリカの学生との熱い討論が非常に刺激的であった。ただ、単位認定がされていないのでそこが唯一の欠点である。【経済・男】
- 京都のことを深く知ることができた。【薬・女】

- 実際に社会に出てから役に立つ内容を教えていただいた。【工・男】
- さまざまな分野の先生方の講義が受けられた。【農・男】
- 先生の雑談が面白かった。【農・男】
- 担当教員が人として魅力的な人であった。【農・男】
- 教科書が読み易く、体系的であった。【総人・男】

■ B群科目

- ◎ゼミ形式なので、他の学部の生徒とも仲良くなることができた。【文・男】
- ◎質問や相談などに非常に丁寧に対応してくださった。【教育・男】
- ◎パソコンの基礎から丁寧に教えてくれた。【法・男】
- ◎実務家の話を聞く良い機会だった。【法・男】
- ◎授業中に演習が頻繁に行われた。【法・男】
- ◎とにかく楽しかった。【理・女】
- ◎パソコンに使い慣れていたので、余裕を持って受けることができた。【医・男】
- ◎この授業によって他の数学の授業に対応しやすくなった。【工・男】
- ◎レポートに対するキチンとした返信があった。【工・男】
- ◎レポートを書く力がついた。【工・男】
- ◎甘やかさない点。【工・男】
- ◎講師の先生が非常に良かった。【工・男】
- ◎授業を受けているだけで自虐的性格になりそうぐらい進行が早くて素敵だった。【工・男】
- ◎十分勉強できた。【工・男】
- ◎色々な授業に役立つ知識が身につけられた。【工・男】
- ◎難解で授業の進度も速かったが、授業内容は有益だった。【工・男】
- ◎レポートの内容や量がとても良かった。【工・女】
- ◎先生が魅力的でした！【工・女】
- ◎授業後の先生との会話が非常に楽しかった。【農・男】
- ◎所属サークルと内容のかかわりが多く、後で知識が役立った。【農・男】
- 実際の統合失調症患者さんの話を聞くことができた。【文・女】
- 質問などに非常に丁寧に対応してくださった。【教育・男】
- 自発的に研究テーマを決めて、教授とのコーディネーションで細かく研究内容を決めていく。
自分の興味を自問する絶好の機会になった。【経済・男】
- 先生がすばらしい。【経済・男】
- 自分が将来進みたいと考えている分野の話だったから。【理・男】
- 授業中のパフォーマンスが楽しかった。【理・男】
- どの教員にも見られることではないと思うが、私が受けた教員は2コマあるうちの1コマを授業、もう1コマを演習に割り当て、演習を次週に提出しないとイケなかった（つまり宿題

- のようなもの) ので、常に勉強することができたから。【工・男】
- 化学科の専門の導入として役に立った。【工・男】
- 努力が認められたから。【工・男】
- 難しい内容であったが、専門の導入として役に立った。【工・男】
- 英語講義だったので、英語の勉強にもなった。【農・男】
- 他の場所では聞けない論だったのでよかった。【農・女】
- リレーの割には、どの先生の話も面白かった。【総人・女】
- 先生の感覚が学生に近かったのか知らんが、語り口がおもしろかった。【総人・女】

■ C群科目

- ◎英語の学習法が身に付いた。【文・男】
- ◎中国語力が格段に伸びた。【文・女】
- ◎コール。【法・男】
- 学生が飽きないように面白く授業してくれた。【経済・男】
- らくちんに優。【工・男】
- 学生がいる状況をよく考えて授業をしてくれる先生だった。【工・男】
- 課題が多かったが、その分ためになった。【農・女】

■ D群科目

- ◎楽しかった。【理・男】
- ◎体を動かすことができたから。【工・男】
- ◎先生が最高でした！卓球は本当に楽しかったです！おかげでその後受ける授業はとても気分よく集中して取り組みました。【総人・男】
- 実生活を送る上で有益な情報を得られた。【工・男】
- 授業長さが適切であった。【工・男】

■ ポケットゼミ

- ◎自分だけで読んだ場合、誤読しそうなテキストを教官の指導の下で、深く読み込めた。非常に有意義であり感謝している。【文・男】
- ◎担当教員の説明が非常にわかりやすかった。【法・男】
- ◎普段聞くことのできない専門家の意見を聞くことができた。【理・男】
- 受講したほかの学生や先生と交流しやすかった。【理・女】
- ポケゼミだったので、主体的に授業に参加できる環境だった。【医・男】
- 物理数学がよくわからない人でも、放射線についてよく学べる内容だと思う。【医・男】
- 少人数授業で教員とコミュニケーションもとりやすかった。【工・男】
- 先生の人柄がよかった。【農・男】

3. 2 「不満だった科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

B (不満だった科目)

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：(自由記述)

登録群：(A・B・C・Dから選択)

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
- 6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
- 7 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～7から選択）

(以下、科目2、3も同様)

3. 2. 1 科目群別の集計

「不満だった科目」として回答のあった科目の総数は延べ675科目であり、「満足した科目」の総数延べ1477科目に比べると半数以下である。

この設問についても、まず「不満だった科目」として回答のあった科目を、科目群別（および回答者の所属学部別）に集計した。その結果が図3-2-1である。全体ではB群科目が5割強と最多で、ついでA群科目が3割強となっており、この二つの科目群で8割強を占めている。文系学生ではA群科目が6割弱と最多であり、B群科目は2割強にとどまっているのに対し、理系学生ではB群科目が約6割を占め、A群科目は2割強となっている。先述の「満足した科目」のちょうど裏返しに、「不満だった科目」に関しても、文系学部生はA群科目に対して、理系学部生はB群科目に対して、それぞれ、より多く不満を抱く傾向があることがわかる（総合人間学部生は両者の中間に位置する）。

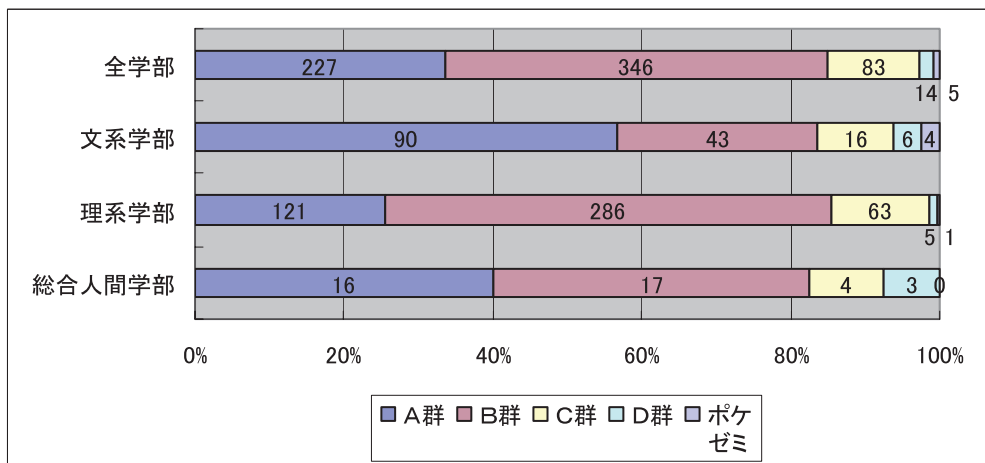


図 3-2-1 「不満だった科目」科目群別科目数（構成比）

3. 2. 2 「不満だった理由」の分析

次に、「不満だった理由」の各項目別の集計結果を図3-2-2に示した。

最重要項目（1つだけ選択）だけでみれば「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった」が最多（延べ163科目）であり、ついで「成績評価の方法や結果に納得できなかった」（延べ138科目）、「授業の内容に興味をもてなかった」（述べ130科目）の順となっている。任意選択項目（複数選択）を加えると、「授業の進め方に工夫がみられなかった」（延べ328科目）、「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった」（延べ304科目）、「授業の内容に興味をもてなかった」（述べ251科目）の順となっている。

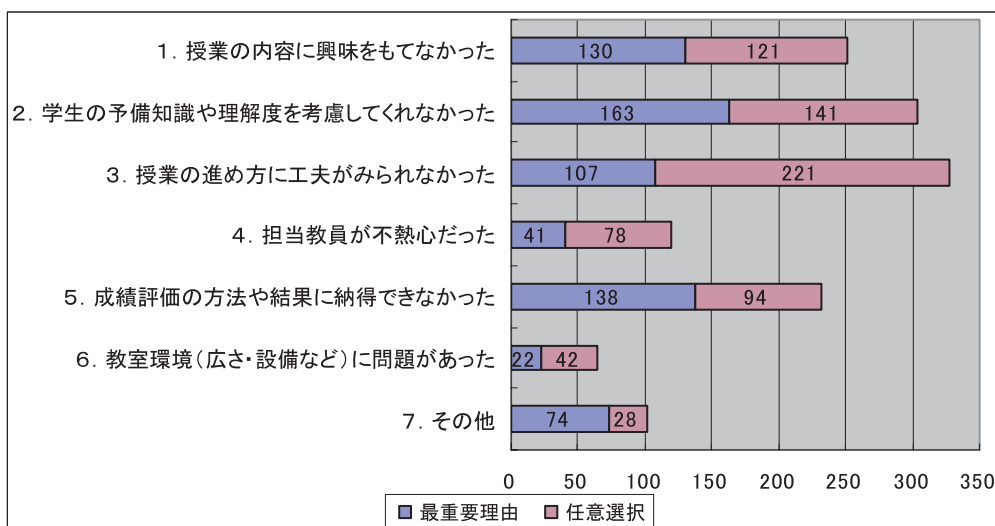


図 3-2-2 「不満だった理由」項目別集計（全体）

この結果を先述の「満足した」理由と比較対照してみると、「満足」感に関しては授業の内容に対する興味・関心が最大の要因となっているのに対し、「不満」感に関しては、学生の予備知識や理解度への考慮、授業の進め方といった（広義の）技術的要因が比較的多くを占めていることが

わかる。

ついで、回答学生の所属学部別に集計した結果を図3-2-3、3-2-4、3-2-5に示した。全体的な傾向にはあまり顕著な差がないことがわかる。

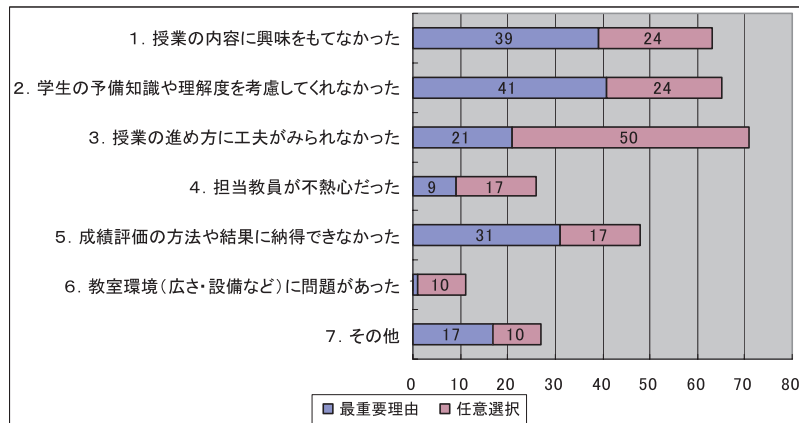


図 3-2-3 「不満だった理由」項目別集計（文系）

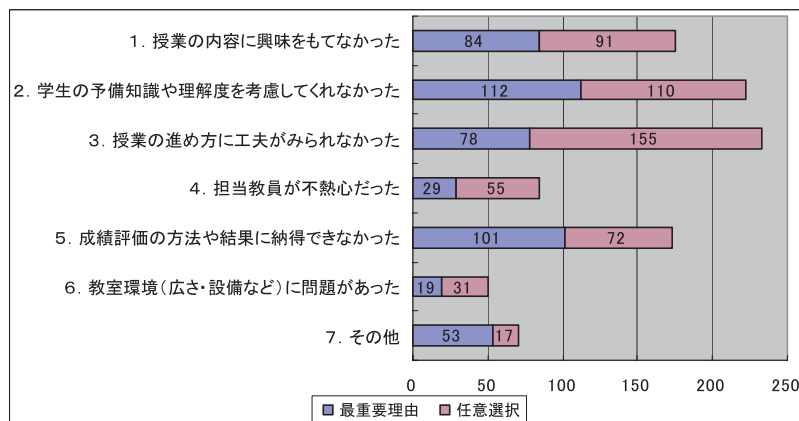


図 3-2-4 「不満だった理由」項目別集計（理系）

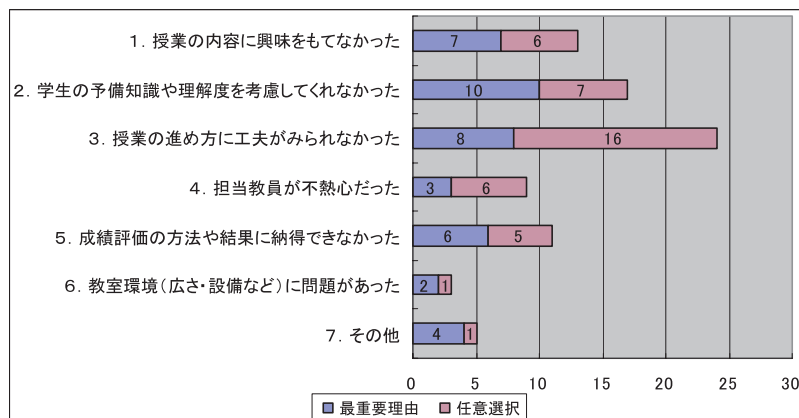


図 3-2-5 「不満だった理由」項目別集計（総人）

3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容

「不満だった理由」の「7 その他」についても、その内容を自由記述方式で尋ねている。その記述内容もやはり多様であるが、シラバスと実際の授業内容との乖離を指摘する回答が比較的に目立つ。また、授業の進め方への不満や成績評価への不満など、実質的には他の項目（1～6）と重なる回答もあった。以下、A群、B群、C群、D群およびポケットゼミの別に、記述内容を掲載する。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

■ A群科目

- ◎休講が多かった。【文・女】
- ◎对个人の対応がよくなかった。【教育・男】
- ◎教室変更がよく伝わらなかった。【法・男】
- ◎シラバスを見て期待した内容と授業内容が異なっていた。【法・男】
- ◎面白くなかった。授業が退屈だった。【法・女】
- ◎かなり出席していたのに 59 点不合格は非常に遺憾である。喧嘩を売られている気分。【医・男】
- ◎学生のマナーが悪い。【医・女】
- ◎シラバスとまったく異なる内容だった。【医・女】
- ◎リレー講義ゆえに、内容のかぶっていることがあった。【薬・男】
- ◎4000 円もする鍋敷き（教科書）買わせやがってそんなに自分の本を売りたいか！【工・男】
- ◎授業内容自体は興味深かったが、どうしても単発的で系統だっていないのが気に食わなかった。【工・男】
- ◎レジュメが非常に読みにくかった。【農・男】
- ◎休講が多すぎた。【農・女】
- ◎授業中にあてる。【農・女】
- ◎登録に回生指定をして、誰にでも公開されるわけではなかった。【農・女】
- ◎早口で聞き取りにくい。【農・女】
- ◎授業の中でカウンセリング患者の愚痴を言う担当教員の心の健康が心配になった。【農・女】
- ◎教授の声が聞こえなかった。【総人・女】
- ◎後期の教室があまりにも寒くて出たくなかった。【総人・女】
- 進む速度が遅い。【文・男】
- レジュメが非常に見づらく、復習がしにくかった。【教育・男】
- 授業内容が体系付けられておらず、授業を通して得られるものが確認しにくかった。雑談が多いように感じられた。【教育・男】
- 結局※※論ってなに??わけがわからなかった。【法・男】

- 教授自身があまりに自分の話をして、結局何を我々に伝えたいのか、結果がまったく見えてこない迷路のような授業であったから。【経済・男】
- 何を伝えたいのか、焦点がぼけていた。【経済・男】
- テストの出題問題があまり適切ではなかった（広範囲な内容に関してだった）。【経済・女】
- 理解が非常に困難。【理・男】
- 授業の流れがよく把握できなかった。なにをどういう風に教わったのかよくわからない。【医・男】
- 想像していた内容と違った。【工・男】
- 教員が適当すぎる。【農・女】
- シラバスと授業内容との乖離が大きかった。【総人・男】

■ B群科目

- ◎レポートの量が多すぎる。【教育・男】
- ◎先生の声・黒板の字が全く聞き取り読み取りできなかった。【法・男】
- ◎全学向とシラバスではなっていたのに、文系学生には極めて高度な内容について行けなかった。【経済・男】
- ◎成績評価が厳しすぎる。【経済・男】
- ◎予め公表していた成績基準と実際があまりに違う。【経済・男】
- ◎教科書の内容を全て教えようとして、駆け足になりすぎていた。【経済・男】
- ◎板書に終始し、学生に授業内容を伝えようとする姿勢が全く感じられなかった。【経済・男】
- ◎ほったらかされた感じがした。【理・男】
- ◎教員の授業内容に対する説明が不十分だった。【理・男】
- ◎内容が少ない。【理・男】
- ◎教員がだるかった。【理・男】
- ◎いきなり難しすぎた。【理・男】
- ◎板書しすぎ。【理・女】
- ◎分かりにくい。【理・女】
- ◎学生をバカにする発言が多かった。【理・女】
- ◎科目名と内容がずれていた（シラバスにはちゃんと正しくかいてあったが）。【医・女】
- ◎他のクラスの同名授業と、授業の質に差が大きかった。【薬・女】
- ◎時間配分が下手。【工・男】
- ◎試験が難しすぎた。【工・男】
- ◎苦勞の割に点数、単位が少ない。【工・男】
- ◎抽象的過ぎる教科書と授業であったため自習が不可能であり、参考書を購入せざるを得なかった。また途中からは、電磁気統論を取るつもりのない学生が多いという事を知ってか、掴みだけをさらうだけという、課された作業を消化するだけの授業になり、非常に面白みが減

- ったと同時に分かりづらくなった。【工・男】
- ◎教員の声が小さすぎて聞こえなかった。【工・男】
 - ◎教員の人間性が劣悪だった。【工・男】
 - ◎課題への対応が不十分だった。【工・男】
 - ◎工学部のクラス指定科目で週2コマ行う授業としては講義・演習の内容と量が不適切だった。【工・男】
 - ◎レポートに時間がかかりすぎる。【工・男】
 - ◎教員の教え方がまずかった。【工・男】
 - ◎板書が見づらい、声が聞こえない。【工・男】
 - ◎ながながと授業をしていて、どこがこのあとの勉強で必要になるのかなどが明確に示されていないかった。【工・男】
 - ◎高校で生物を履修している必要はないとシラバスに書かれていたのに、講義および試験は高校生物の知識がないとほとんど理解できなかった。【農・男】
 - ◎教員の声が小さい。【農・男】
 - ◎字が小さい、汚い、声が聞こえない、遅刻する。【農・男】
 - ◎講義の説明が判りにくかった。【農・男】
 - ◎決してやわらかくなくかった。初回の授業で打ちのめされて取らなかつた。【農・男】
 - ◎授業時間の割りに単位数が少ない。【農・男】
 - ◎教科書に書いてある事をなぞるだけなので、面白みがなく授業に出る気も削がれた。【総人・女】
 - 非常に講師独りよがりの授業だった。【経済・男】
 - 分かりにくい。【理・女】
 - 同じ科目名で複数開講されており、クラスによって内容が非常に異なる。今回の担当者は非常に難解な内容ばかりを取り上げていた。統一してほしい。【工・男】
 - 少ししか使わないのに教科書高すぎ。【工・男】
 - 試験問題がおかしくまた、成績の評価も不公平だった。【工・男】
 - 理由があつて休んだのに許可してくれなかつた。【工・男】
 - 基本的に時間の掛かる実験が多いにも関わらず、3,4限目に実験があるために5限目をまともに受けることが出来なかつた。【工・男】
 - 分かりにくかつた。【工・女】
 - 先生がいつもなぜか不機嫌だった。【工・女】
 - ページにおける送信ミスした答案を採点されたと思われる。【農・男】
 - レポートの送信先を間違つたために単位を落とした。【農・男】

■ C群科目

- ◎授業が終始、雑談ばかりだった。【法・男】

- ◎役に立たない時間の無駄。【経済・男】
- ◎扱っている内容・文章の量が少なかった。【理・男】
- ◎テスト問題の内容が異常。文法のテストなのに、出題されている単語のレベルが高すぎたため、できるはずがなかった。教科書と全く同一の文だったらしいが、ただ膨大な量の文を丸暗記させるだけの出題ととられてもおかしくないものであり、全く納得がいかなかった。【理・男】
- ◎明らかに厳しすぎる。【理・男】
- ◎教え方が下手であり、また教室内にいた学生の態度は、学級崩壊そのものの状況だった。【医・女】
- ◎教員の持つ思想を押しつけられた気がするから。【医・女】
- ◎教官からの writing の指導や毎回の課題に対するフィードバックが少なかった。【工・男】
- ◎英語ではなく日本語の文章考えるのに苦勞した。【工・男】
- ◎人数が多すぎて声が聞き取りにくかった。【農・男】
- ◎担当教員の思想に不快感を感じた。【農・男】
- 担当教員による学生へのえこひいきがあり、また担当教員に何を求められているのかが理解できなかった。【文・女】
- わずか5分遅刻しただけで教室に入れないうなど、対応があまりにもひどかった。【法・男】
- 何であんな人が教諭をやっているのかわからない。【工・男】
- 怒り方が学生を萎縮させるような怒り方だった。【農・男】
- 時間の都合で授業を進めている感じがして勉強しにくかった。【農・男】

■ D群科目

- ◎授業が京都大学の学風にあっていない、と思った。【理・男】
- ◎前期と後期開講するスポーツをかえて選択肢を増やしてほしかった。【工・男】
- ◎後期のバトミントンがなかった。【工・男】
- ◎大学の体育で馬鹿正直にもくもくとやらねばならない意味がわからない。ゆるく楽しめばいいのではないか。【総人・男】

■ ポケットゼミ

- ◎訳あって出席できなかった。【文・男】
- ◎担当教員が怒鳴りすぎて、恐怖で講義に集中するどころではなかった。【文・女】

4 全学共通科目への期待

問4 あなたは入学当初、京都大学の全学共通教育に対して、次の各項目をそれぞれの程度期待していましたか。

	どちらかといえば		どちらかといえば	
	期待していた	期待していた	期待していなかった	期待していなかった
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生どうしの交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手がかり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

まず、この設問への回答の集計結果を図4-1に示そう。最も「期待していた」という回答が多かったのは「専門以外の幅広い知識・教養」(577件)、ついで「専門での勉強の基礎」(524件)、「自分の研究内容へのヒントや刺激」(360件)の順となっている。

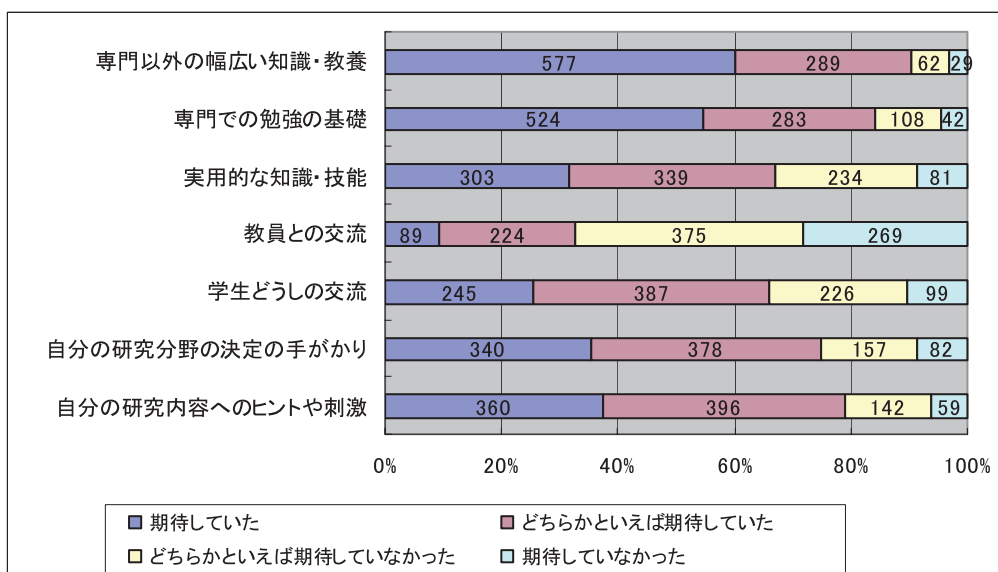


図4-1 全学共通科目に期待する内容(全体)

次に回答者の所属学部別の集計結果を図4-2、4-3、4-4に示そう。予想されるとおり、「専門以外の幅広い知識・教養」への期待は理系学部生より文系学部生のほうが、「専門での勉強の基礎」への期待は文系学部生より理系学部生のほうがそれぞれ高く、文系と理系の全学共通教育への期待内容の違いが明確に表れている。なお、総合人間学部生の回答傾向はこの設問に関しては文系学部生に近く、必ずしも文系・理系の中間とはなっていない。

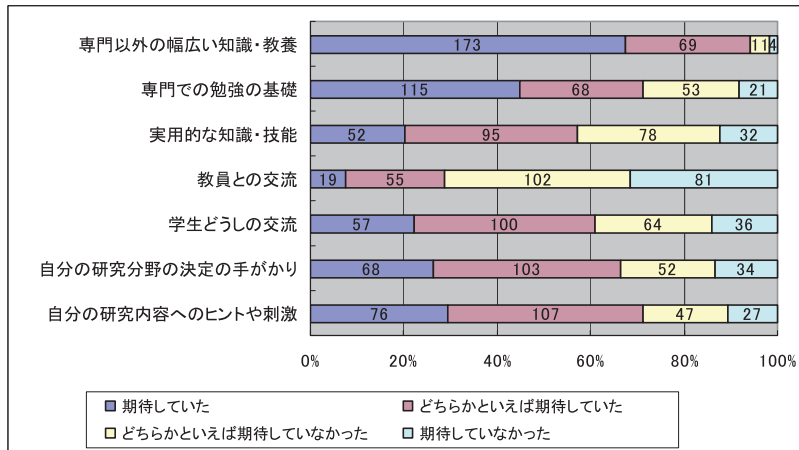


図 4 - 2 全学共通科目に期待する内容（文系）

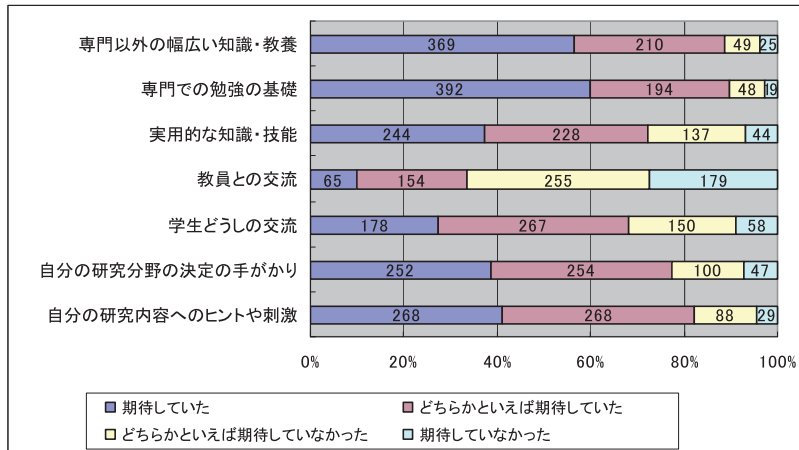


図 4 - 3 全学共通科目に期待する内容（理系）

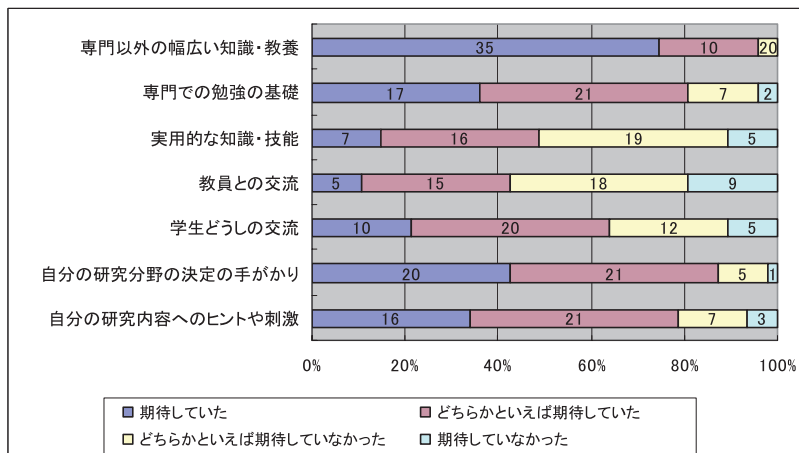


図 4 - 4 全学共通科目に期待する内容（総人）

5 期待は実現されたか

問5 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった |

この設問への回答の集計結果を、図5-1に示した。全体として、全学共通教育への期待が「実現された」「どちらかといえば実現された」という学生があわせて55.7%にとどまり、「実現されなかった」「どちらかといえば実現されなかった」という学生があわせて44.3%存在するという数字は、全学共通教育の現状認識として、かなり厳しく受け止める必要があるだろう。

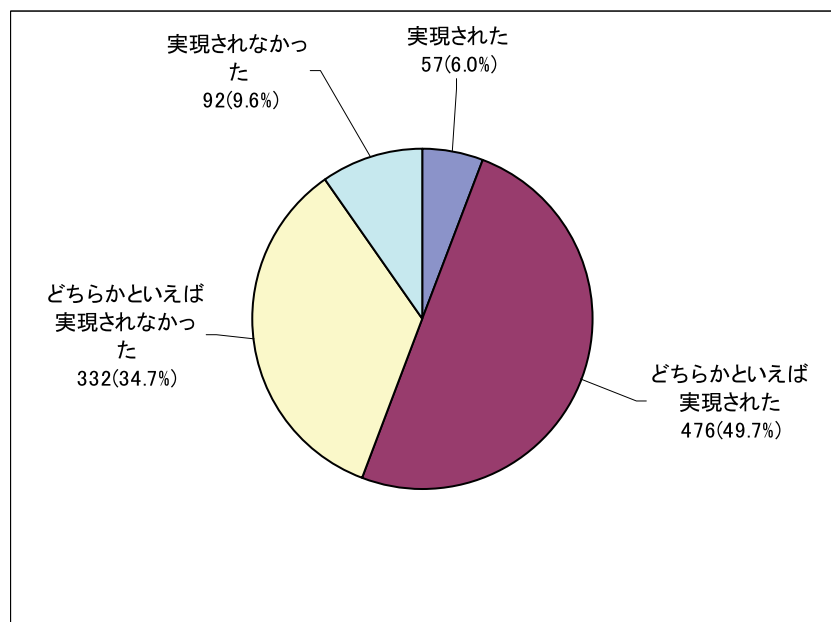


図5-1 全学共通教育への期待は実現されたか（全体）

ついで、回答学生の所属学部別の集計結果を図5-2、5-3、5-4に示す。あまり顕著な差はないが、期待が「実現された」と回答した学生は、総合人間学部生10.6%、文系学部生7.8%、理系学部生4.9%の順となっている。総合人間学部生はサンプル数が少ない（47名）ため厳密な判断は難しいが、理系学部生よりも文系学部生、さらに総合人間学部生のほうが、全学共通教育への期待が実現されたと感じている傾向がうかがえる。

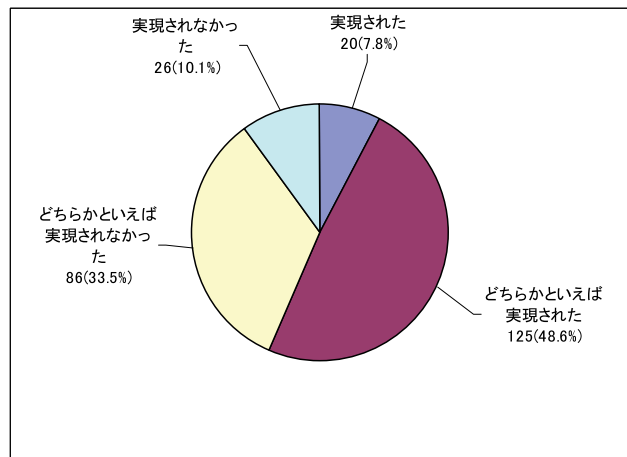


図5-2 全学共通教育への期待は実現されたか（文系）

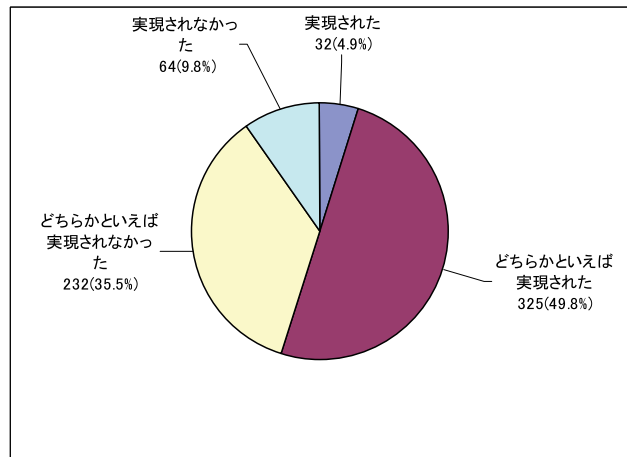


図5-3 全学共通教育への期待は実現されたか（理系）

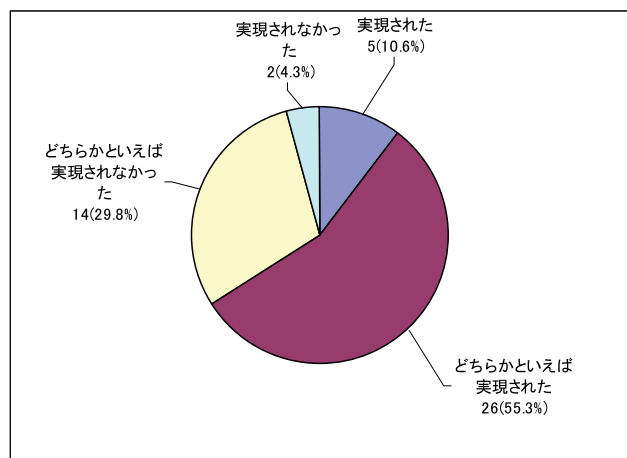


図5-4 全学共通教育への期待は実現されたか（総人）

6 今後の全学共通教育への要望

問6 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるものすべてに

チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 特に要望はない
- 2 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 3 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 4 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 5 授業にもっと熱意をもってほしい
- 6 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 7 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- 8 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 9 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～9から選択）

6. 1 項目別集計

この設問への回答の集計結果を、図6-1-1に示す。「特に要望はない」という回答が218件と、回答者総数の22.8%を占めている。それを別にすれば、「最も重要なもの1つ」として最も多くの学生があげた要望は「学生の関心により対応した内容」（181件）であり、ついで「学生の予備知識や理解度を考慮」（138件）、「授業に熱意を」（101件）の順となっている。任意選択項目を加えた場合も、「学生の関心により対応した内容」が最多であり（337件）、ついで「学生の予備知識や理解度を考慮」「授業の進め方の工夫」が同数の298件となっている。

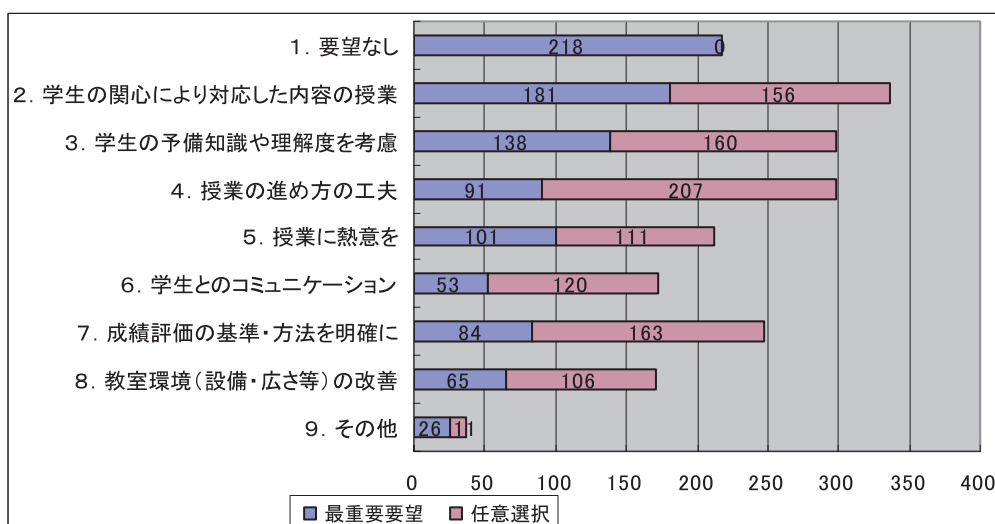


図6-1-1 今後の全学共通教育に対する改善の要望

ついで、回答者の所属学部別に集計した結果が図6-1-2、6-1-3、6-1-4である。

これらを比較してみると、「学生の予備知識や理解度を考慮してほしい」という要望は、文系学部生においてはそれほど強くないが、理系学部生においてはかなり強い（最重要要望と任意選択の合計では2位）ことが注目される。

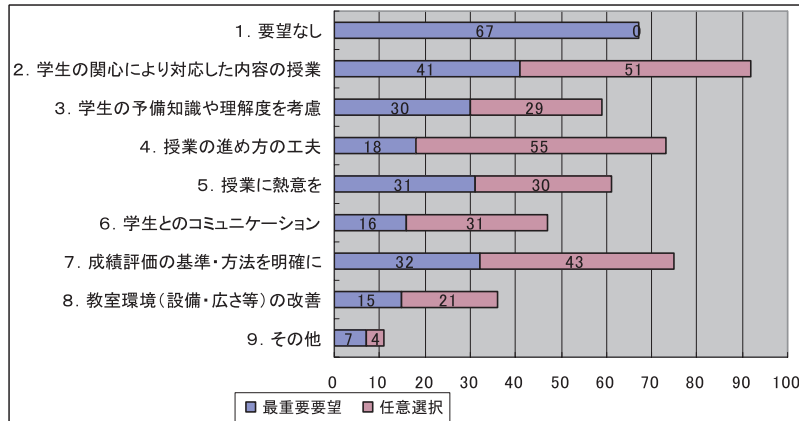


図6-1-2 今後の全学共通教育に対する改善の要望（文系）

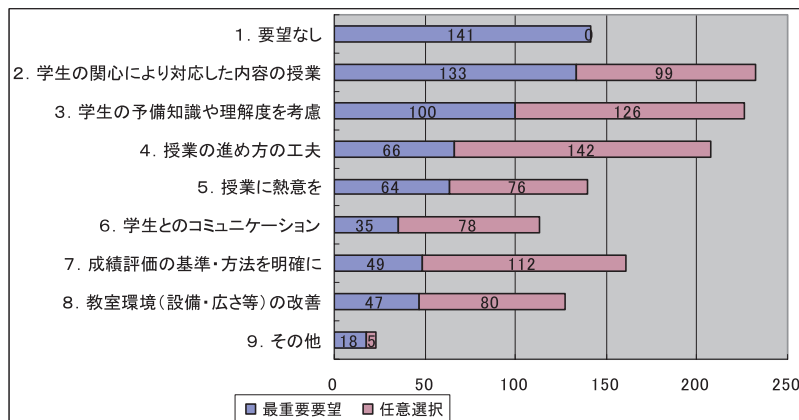


図6-1-3 今後の全学共通教育に対する改善の要望（理系）

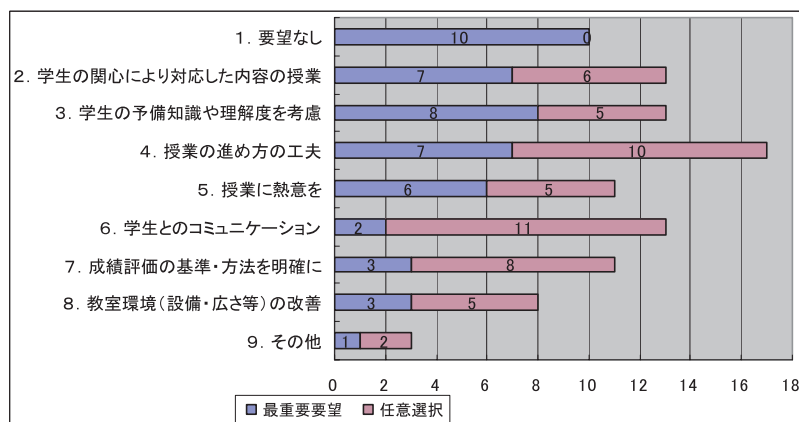


図6-1-4 今後の全学共通教育に対する改善の要望（総人）

6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容

「8 その他」は、上の図表に示したとおり量的には多くはないが、記述内容は下記のように、全学共通教育のシステム（カリキュラム・時間割・クラス指定制度・履修人数制限など）、授業方法や教員のスキル、そして教室環境や設備等に関する要望など、多岐にわたっている。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- ◎シラバスをもっと見やすくしてほしい【文・女】
- ◎マイクやプロジェクターなどを有効に活用してほしい。【法・男】
- ◎難易度をあげる。【法・男】
- ◎文系の数学の授業を増やしてほしい。【法・男】
- ◎もっと楽に単位を獲らせてほしい。【経済・男】
- ◎教員による単位認定の差をなくしてほしい。【経済・男】
- ◎成績の詳細情報は出すべきと考える。4000字のレポートのみの評価方法で合否のみを表示するというのはあまりにも勉強に対する好奇心がなくなる。【経済・男】
- ◎授業に出なくても単位を取れるようにしたほうが良い。【理・男】
- ◎スライドではなく、黒板を使った授業を展開してほしい。【医・男】
- ◎学部の選択必須科目に実験が書いてあったのですが、後期に履修する分も前期に申し込むなどの実験・実習に関する規定が別のページに書いてあり、見にくく感じました。【医・女】
- ◎6時間目を作り、珍しい科目を受講しやすくしてほしい。【薬・男】
- ◎出席するだけで単位がもらえる科目を増やしてほしい。【薬・男】
- ◎中身が充実している授業をして欲しい。【薬・男】
- ◎板書を書く時間を少しだけでいいのでとるか、プリントを配るなどして、後々に“残る”授業をして欲しい。【薬・男】
- ◎出席率にこだわらないで欲しい。【薬・女】
- ◎クラス指定科目によって興味のある授業が出れない。【工・男】
- ◎教える気のない教官を採用しない。【工・男】
- ◎興味を持てる（実用的な）科目をもう少しふやしてほしい。【工・男】
- ◎全学科目に関する抽選を全て KULASIS 上でできるようにしてほしい。【工・男】
- ◎抽選の実施の如何が学生側に非常に伝わりにくいように感じるため、KULASIS でより分かりやすく載せるなどの改善をしてほしい。【工・男】
- ◎不満は付き物だが、かといって変えてほしいというものでもない。【工・男】
- ◎要望してもしょうがないので要望しない。【工・男】
- ◎京大の最先端の研究とかのリレー講義があったら受りたい。【工・女】
- ◎きちんとしすぎ。京大らしくない。【農・男】

- ◎前期と後期で内容が関連している科目（初修物理学AとBなど）は同じ時間で開講して欲しいです。（専門科目に重なって受けられない場合があるため）【農・女】
- ◎学問の面白さを教える事って、案外大事だと思いますよ。【総人・女】
- 成績に関する申し立てが使いにくいです。【法・男】
- 講義に全く出席せずに単位が取れてしまうというのはやめてほしいし、逆にほとんど出席していないと単位がもらえないというのもやめてほしい。【農・男】
- 実用的な英語にもっと力を入れてほしい。（TOEICを受けさせるとか・・・）【文・女】
- 授業時間の延長をできるだけ避けて欲しい。【理・女】
- シラバスを授業内容に忠実に即したものにしてほしい。【文・女】
- とりたい授業時間帯に集中している場合がある。教授の都合や講義に来る学生数など問題も多いと思うが、1時間目が少なく2時間目と3時間目が多いのは考慮していただけないだろうか。【文・男】
- シラバスの内容と実際の授業の内容をもっと沿うようにして欲しい。【総人・男】
- パワーポイントを使って一本調子でしゃべる授業が多い。【総人・男】
- 分かるように説明してほしい。【法・男】
- 時間割を組む上でクラス指定科目がかなりの障害になったので工夫してほしいです。【理・男】
- 音楽の講義を設けてほしい。【農・男】
- 読める字を書いて欲しい。【農・男】

7 自由記述

問7 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

この自由記述欄には、全回答者 957 名の過半数 494 名が回答している。以下、かなりの量になるが、学部別に学生の記述内容を掲載していく。内容的には、科目の豊富さ・多様性や授業選択の自由さなど、京都大学の全学共通教育の特色を高く評価する記述もある一方で、(先述の問6でもみられたように)、全学共通教育のシステム(カリキュラム・時間割・履修人数制限・クラス指定制度など)、成績評価の基準と方法、教員の熱意、授業方法とスキル、あるいは教室環境や設備等に関して、かなり多くの批判的意見もみられた。なお、●は男子学生、○は女子学生の回答である。

7. 1 総合人間学部

- もう少し出席を重視してもらいたいです。
- 一番感じたのはやっぱり自分から勉強していかないと、何も身につかないということ。大学だから授業をさぼろうと思えばいつでもサボれるし、それをとがめられることもない。けどそれじゃ何も身につかない。多少無理をしてでも勉強したほうがよい。ただ、教員がやる気がないことが結構あり、高校のように枠にはめられた教育をすることとは違って自分の好きな分野を教えているわけだからもっと熱意をもって教えて欲しいなとも思う。
- 大学での成績の重要性がわからないまま一年をすごしてしまった。もっとはやく 2.45 という数字を意識していたら適当に受ける授業は少なかったと思う。
- 教授によって授業の進め方に大分差があり、おもしろい授業は面白いけど、面白くないのはマジでへこみます。もっと熱意を持ってください!! 授業を工夫してください!!!! かな
- 時間割を決定するまでの期間が長すぎて、その間あまりに真剣に吟味しすぎてかなり睡眠不足になりしんどかった。
- シラバスに書いてある状態では非常に興味を惹かれるものでも、実際には内容がおもしろくなかったりすることに非常に落胆していた。
- 特になし。
- 実験は単純に面白かったが、レポートがめんどかった。まあそれは、まあ、まあ、仕方ないことか。大学生にもなって教科書通りの事を言われたら、そりゃあ授業に行く気なくしますよ。自習のほうがマシやんけってことになるし。授業内容から多少脱線しているようだけ関係ある話とか、私は面白いと思うのでそういうのいっぱい聞きたいです。

- 制度上仕方のないことだとは思いますが、受けた講義が特定の時限に集中してしまい、受講を諦めなければならないことが多々ありました。
- 特にありません。
- 授業のつまらなさに愕然とした。内容というよりむしろ雰囲気、教授のやる気に問題があると思う。次回からは授業名ではなく教授名で選ぼうと思った。
- 結局1年間自分の専門にしたいような分野を見つけることができなかったが、全学共通科目をうけて、授業だけでなく、授業で紹介された本で興味があるものを読んでみることで興味の幅は広がったと思う。
- 幅広い教養を身につけたく思い、おおいに勉強しようと意気込んで入学したにもかかわらず、自主的な勉強をほとんどすることなく1年を過ごしてしまったことを残念に思います。しかし先輩や仲の良い友達に触発されるところがあって自分の学びたい分野を多少なりとも見つけることができ、そういった分野の授業には積極的に取り組むことができました。新しい学年にあがるこの機会に、もう一度気持ちを入れ直して励んでゆきたいと思います。
- 担当の教員と親しくなれた科目は非常に面白く、ものの考え方など学ぶところが大きかったと思います。試しに取ってみた授業が面白いと嬉しくなります。
- 高校までの「授業」と大学での「授業」というのは全く次元の違うものだと強く感じました。教授の人間性が良くも悪くも授業に反映されていました。
- 今年がんばります。
- ほとんどの科目は、学生は単位が必要だから仕方なく受けている、先生も仕方なく教えている、というような印象を受けた。面白いと感じる授業は稀だった。はやく専門に進みたいと思ってしまった。
- 題名は面白そうでも、中身が想像していたものと違うことがあったことが少し残念だった。しかし、全学共通科目を通して今まで知らなかった学術的な知識を身につけることが出来たと感じた。
- 期待していたよりも上だったでもなく下だったでもなく、まあこんなものか、というのが素直な感想。これから専門的に学んでいきたいと思う分野を見つけるのには、全学共通科目は役立ったと思う。
- 自身の専攻を定める上で大きな指針となった。専門外の分野についても、今まで興味を持っていなかった分野への足がかりとなった。
- 知識なんてものは使わなければ存外速く薄らいでいくものだと実感。
- 興味深い授業もあるのだが、学期末の試験にはどんな問題が出されるのかなどが気になって、余裕を持ってそういった授業を聞けなかったという印象がある。教科書なども指定されず、どうやって勉強してよいかわからない授業もあったので、試験のことは工夫してほしいと思う。また、授業の進め方に問題があるのか、90分という時間が苦痛にすら感じられることもあったので、改善してもらいたいと思う。しかし、科目数も多く、各々が学びたいことは学べるような体制はできていると思うので、その点はよいのではないかな。

○大学の授業のスタイルに慣れるまでに少し時間がかかり、自分の努力不足も重なって授業を自分のものにしきれなかったように思う。

●とにかく卓球が最高でした。**先生によろしくお伝えください。他の授業としては、期待通り、あるいはそれ以上に楽しかった科目もあれば、期待していたものとは少し違ったものもありました。でもその期待と違った場合でも、要は自分の受け方を工夫すればいいわけですし、いたずらに授業や先生方のせいにするのもどうかと思います。そういうわけで僕としては楽しめたものは楽しめ、役に立ったものは役に立った、とポジティブに捉えています。

7. 2 文学部

●全体的には興味深い授業が多かったが、自分は文系なので、やはりB群の授業はあまり面白くなかった。また**語をしっかりと学びたいと思って入学したのだが、二つの授業（文法と実習）のうち、一方の授業の担当教員は頻繁に授業を休講にしていたので、残念だった。自学自習を重んじるということも当然重要だし、大学教育の根幹は自学自習にあるといっても過言ではないのだが、教員の熱意が感じられなければ学生も学習意欲を失ってしまうということを肝に銘じてほしい。また語学というものは習慣性・継続性のものなので、一回授業を休講にするということによって学生、特に初修外国語を学ぶ学生は非常に不利益を被るので、頻繁に授業を休講にすることはやめてほしい。

○全学共通科目は学生と教員の意識のずれ違いが大きいと感じました。課題をこなす高校までの勉強のやり方とは違う学び方に慣れないうちに放任されてしまって投げやりになる学生と、自分の講義を中心に考えて、学生の姿勢に対しては関心の薄い教員は講義室ですれちがっています。問3Aで挙げた授業は先生方の熱意で大変興味深く、この大学へ来てよかったと強く感じました。

●講義の際、教官の中には板書を丁寧に記してくれる人もいればまったく何も書いてくれない人もいる、毎回レジメを刷ってきてくれる人もいればそうでない人もいる、わかりやすい大きな声で話してくれる人もいればよく聞き取ることのできない小さな声で話す人もいる。おそらく京都大学に入学した人が受験期間に体験したであろう「わかりやすい授業」はもう終わったのだということをもっと思い知らされた。しかし講義の登録からテストの受講にいたるまで何もかも自己責任という境遇において納得のいく成績を残せたのは自信になるし、いい経験になったのではないかと感じている。

●あまりにも大人数である全学共通科目の授業だが、もう少し教授の生徒に対する気配りがほしいものだ。

○大学側の学生へのサポート体制が不十分だと感じました。もっと詳しく情報を公開してほしいし、不親切な部分を改善して行ってほしいです。科目の多さに関しては、幅広い知識を得られたので満足できました。評価方法に関しては、レポート読んでんのかという教官もたくさんいらっしゃいますが（笑）。

○自分の専攻を決める手がかりにしようと、様々な興味ある分野の授業をとりましたが、どれ

も期待はずれで学習意欲を一時期無くしました。もちろん、その分野の研究内容が面白くないのか授業が面白くないのかの判断は難しいので、一概に授業のせいには出来ませんが。まったく無知な生徒に対して、その分野の知識をイチから少しつっこんだところまで示して欲しかったです。

- 一つ、要望がある。それはレポートに対する返信だ。どうもレポートが一方通行になっていて、それが悲しい。そもそもレポートを提出する目的が達成度や理解度を見るものであれば、それに続く指導も必要ではないのだろうか。レポートで自分の考えを述べる時、中々に緊張する。それと同時に幾ばくかの興奮も覚える。これらは創造行為に連なる心の震えからくるものだろう。教授の方々から見れば恐らく稚拙なものであろう、しかし学生が懸命に考えた将来の萌芽というべき考察を、何も世話をせず放っておいてよいのだろうか。芽が萌出する前から果物を実らすまで世話をすれば、とてもよい収穫が得られる。大学生とは恐らく、義務教育という地面から芽吹いた萌芽の時期にあたると思う。そのことを重く見てレポートに対する返信を求めたい。しかしながらこの作業は、先生方に対し非常に労力を要するだろう。そのため、希望者制にしたり、出席回数が〇回数以上のものに限り返信要請を認めるなど、労力を極力減らす努力を、この制度を加えるにあたってあわせて考えていただきたいと思う。

○様々なことを学べて、とても楽しい一年だった。ただ、後期はレポートに追われてあまり本を読む時間がつくれなかったのが残念だった。

- 熱心に受講した講義もあれば、そうでないものもあり。熱意を持ち続けていきたいと思っても、忙しい日々を送っていると案外余裕がなくなってくるものである。語学が2006年度は楽だったので、その反動が来ないか心配。

- 面白い授業は本当に面白く、単位に関係なく講義に出席させる魅力を持っていたが、そのようなものばかりというわけではない。だから単位を取るために多数の普通以下の授業にも出なければならなかったのがつらかった。

- 学べる分野が広く、ありがたかった。科目によっては期待していた内容との落差が大きかったものもあったが、全体として教員も熱心で、満足している。

○自分の学部とは全く関係ないが、大好きな地学を学べてとても楽しかった。また、異なる専門の教授の色々な話を聞くことで教養を広められたと思う。

○選んだ講義によって自分の向き・不向きもあったが、全体的には楽しかった。

- 自分の志望専攻以外でも興味を持てる分野を見つけることが出来たように思う。

- 高校まではテストで点を取るためにどう効率的に勉強するかに重点を置いていた。大学では評価が甘かったのでよい意味でリラックスして勉強でき、幅広い知識を得ることができた。幅広い考え方がいくらかできるようになったと思う。

- 教授の研究内容の紹介などが主だったのだが、もっと一つの学問について網羅的に概説してほしい授業が多々あった。一人で読書していた方がよっぽど教養が身につくと思った。

○教員にも教え方が上手い人と下手な人がいて、上手い人に習えば勉強は楽しく、そうでなけ

ればつまらないことが多いということ。

●初めから自分が専門としたいもの以外の教養をほとんど必要としていませんでした。せっかく意欲をもって大学に入ったのに、その気持ちを殺がれた気分です。全学共通科目しかとれない1年がもったいなかったと思います。この制度自体問題があると思います。また、成績評価の基準も明確ではなく、なぜそのような評価になるのか疑問を抱くことがたくさんありました。

○語学を一番頑張っ、一番語学（特に第二外国語）が伸びたと思います。ただ、英語に関してはもっと会話的なことも授業すべきだと思います。もっと社会に出て使える英語をしてほしいです。他の一般教養に関しては、興味深い授業もたくさんあり、よかったです。ただ、何かと先生も自分の研究の方が興味があるようなので、教員ももっと生徒に対して熱意を持ってほしいと思いました。もちろん、生徒も勉強はしなくてはいけないのですが・・・

●このようなアンケートを取る必要性を全く感じない。学生の不満にいちいち学校のほうから出て行って対応する必要は全くないと思う。面白くなければ自分たちで解決策を考えるし、その方がこの先に生き残れるような学生を生み出す気がする。また、授業にはさっぱり出て行かなかったために授業で「・・・についてはさておき、・・・について述べると」というかつての東大仏文で認められていた方法をやらざるをえなかったのだが、単位が認められ非常に励みになった。この方法を行ってみて初めてわかったのだが、授業の内容をただ覚えていくよりもはるかに難しかった。幅広い知識がたぶん必要。全学共通科目は履修登録が必要であるために、もぐりをやっているうちに興味がわいたり友人から聞いた授業を受けても単位がもらえないのはどうかと思う。無理だと思うが、履修登録制度をどうにかしてもらいたい。現在の制度では単位数や成績といわゆる「教養」が全く関連がなく京大の教養理念を達成しているのかに疑問を感じる。最後に。偉そうなこと書いてすみません。

○幅広い分野に触れることができ、楽しかったです。自分の興味関心とは違う分野へも興味を持つきっかけになりました。できることなら、今年も色々な分野の授業を受けてみたいです。

○全学共通科目を受講することによって、自分が研究したいもの以外についてまで学んだり、考えたりすることが出来る時間を得られたのはよかったと思う。しかし、わりと教員が話したいことを話すと言う感じで、学生に教え学ばせると言う感じの講義でなかったものもあった。大学に集まった学生はある程度学びたいものがあるから大学に来ているわけだから、学生に学ばせる講義であるべきだと思うし、教員の自己満足に終わってはいけないと思う。

○いろいろな分野に触れることができたのは良かったが、履修の時に参考になるものが欲しかった。

○入学当初は新しい環境と言うこともあり、やる気に満ち溢れていたが、それを維持することが難しい。先生方には、中だるみしないような授業を考えていただきたいと思います。

●自由すぎて方向を見失った。でも後悔や反省をするつもりはありません。

●もっと厳しくしたほうがいいのかではないだろうか。

○もっとしっかり授業を受ければよかったなあと思った。真剣に受けた授業はそれだけ得るものが多かったのだ。

●学問に王道なし、されど単位取得に王道あり。

○1回生のうちは全学共通科目しかとる必要が無かったため、自分の興味の赴くままに科目を選択したが、全て興味のあるものであるはずなのに、そればかりになるとその中でも特に興味のあるものと、そこそこの興味しかないものとの差が出てきたように感じた。

○前期なら、留学生だから、授業の内容または先生の話がわかるかどうか心配しましたが、前期の成績表を見ると、成績がよくて、うれしかった。それで、後期にもっとたくさんの科目をとることにした。そうして、後期中一生懸命勉強していて、また成績がよかった。時には、本当に悩んで、授業に出る意欲もなかったが、一般的に授業の内容にも先生の教え方にも満足している。

●成績評価における統制。

○授業によっては自分の興味に合わないものや、意味不明な先生もいた。でも、**先生の講義や**先生の授業は素晴らしかった。そういう先生に出会うと、とても意欲がわくし、京都大学に来てよかったと思った。

●シラバスは当てにならない。

●正直期待は裏切られた。これからの専門科目に自分が求めるものがあることを期待する。

●正直言って、どれだけ単位をとらなければならないかということを考えながらやるのは何か納得できないところもあった。

●視野が広がったと思う。

○本当になんでも、自分の進みたい方向と関係のない授業も受講できる環境にあって驚いた。結局A群ばかりとってしまったが、もっと違う分野の授業も受けてみればよかったかな、と思う。その道を研究している教授の授業なので、面白いものは本当に面白かった。そして何より、授業を聞くも聞かないも自由だし、聞いて何を自分が感じるかも人によって様々だろうし、開放的な印象が大きい。やっぱり、単位が楽に取れるとかいうことよりも、自分が興味を持てる講義を選ぶことが大切だなと感じた。

●一般教養である以上、専門を学ぶ前に学問に対するアプローチを学ぶことが重要と思っていた。その点は、果たすことができたし、授業も比較的満足のいくものであった。

●受けた科目が語学にかぶって不満を感じた。

●今思うと、一年を通してのゼミを選択したことが自分にとってすごくプラスになった。興味を持ったことを自分の手で調べる大変さと楽しさ、自分の意見を発表するという経験、先生の経験に基づく含蓄のある話やただ面白い話をたくさん聞いたこと、思い出すと懐かしい。先生の話をするときのあの知的好奇心に満ちたキラキラした眼に、学者のあるべき姿を見た。自分の好きなことをとことん追求すること、それが僕がこの大学ですべきことなんだ、ということを感じ知らされた。単位がとれるかとれないかとか、どの講義が楽かとかそういうみみっちいことはどうでもよくなり、じぶんのやりたいことをやればよいと思うようになった。

人間としての幅が大きくなった気がする。

7. 3 教育学部

- 教員により、授業の質の差が激しい。
 - 講義に対するやる気が、先生によって、大きく異なることに、違和感を覚えた。語学の授業は、もっと、外国人の先生を増やして欲しい。
 - 勉強してもとれない科目があると思った
 - この一年で何を学べたのかがわからず不満です。
 - できるだけ専門と関係なく、それほど深い知識は要らないから、興味を持てる分野を軽く学びたいと考えていたのだが、どうも難しい話になっていたり、あまりおもしろくない話ばかりされたりと、やる気を削がれることが多かった。もっとライトな授業をしてほしいと思った。
- 京都大学の全学共通科目は種類が豊富なので自分の興味に合った授業を選ぶ楽しさがありました。また、その中で特に知的好奇心を刺激されるような授業に出会えたときには本当に自主的に学習に取り組むことができ、学ぶ喜びも感じられました。
- 放任すぎて勉強しなかった。大学生なんだから自分でやりなさいと言われればそれまでですが、ではなぜ京大以外の大学がここまで放任でないかを考えたことがあるのでしょうか。
- あまり興味がなかった分野のものも受講することで、今まで全く知らなかった様々な知識にふれることができた。そういうものの存在に気付けたことは、自分にとって意義のあることだったと思う。
- 質問体制をもう少し整えてほしい。特に数学関係においては、担当教員が丁寧に教える時間の無いほどカリキュラムが切迫していることが多く、授業以外で質問しようにも、非常勤講師であったり、教授なため多忙で十分な時間を取れなかったりなど不満を感じる人が多い。質問コーナーもやはり担当教員本人でないため、ぴったりくる場合ばかりというわけにもいかず、また時々対応の悪いチューターもいるなどと聞く。何かしら数学関連において受け止めてくれるところがないと、授業でわからない、聞いてもわからない、そのまま単位も落とすなんていうことにもなりかねない。

また成績評価などに利用される小テストなどの採点においても教授が多忙なため TA が行うことが多いが、教授とのコミュニケーションが十分にとられていないことが多い。つまり採点が○×のみで十分な説明が施されないまま返却されたり、機械的につけられた点そのまま成績に反映されたりと、ほったらかしな印象が目立つ。単位がかかっているのに、いいかげんなことはして欲しくない（すごく丁寧にしてくれる人もいるのだけれど）。

いまだに「数学は本人ががんばるものだ」ということを隠れ蓑、美しい言い訳にして煩瑣さを回避しようとする考えの者が多いが、ちゃんと説明すればしなくてもいい努力があるのに、説明を省くがためにいらない努力を学生に押し付けているという現状が圧倒的に多い。もう少しそのあたりを関係者は肝に銘じる必要があると思われる。当然サボっている学生も

多々いるだろうが、頑張っている学生もいるので、そのあたりを忘れないでほしい。わからないから質問しているのもあって、それを「サボっていて考えていない」などと勝手に勘違いしきつい言葉を浴びせるなどはもってのほかである。

教授にしろ、TAにしろ、やはり教えられる内容が「わかっている」人たちである。その人たちが「わかって」いても学生にはわかっていないかもしれない。そしてその人たちの感覚で「できるだろう」ということは、学生にも「できる」とは限らない。だから学生の意見というのはえてして教授や TA からすれば「何を言っているのか」というような感覚でしか捉えられず、授業や教え方が何ら変わることなく続いていることもあるように思う。学生の理解の状況ということにももう少し目を向けていただきたいとも思う。数学の質問コーナーにおいても、学生は「何がわからないか」すらわからない場合も存在する。自分のものさしだけ考えてものを教えるのではなく、優しく、生徒の立場になって、根気強く教えてもらわねば困る。雰囲気が悪い中勉強しているなどという状況は払拭すべきである。

非常に丁寧に解説・講義して下さる教員・TA もいらっしゃるので、そういう「当たり外れ」みたいな事象をなくすように努めてほしい。もっと対応してくれる人数を増やすとか、時間帯を増やすとか。「おまけ」という印象が強く、そんな感じで教えてほしくも無い。

もうひとつ。大学の数学のテストにおいては「自分で使えるようになる」というのが確かに前提となっていることは認めるが、あまりにも難解であるものに対しそのような弁明は通用しないはずである。数学はそんなに短期間で習得・真の理解ができるものではないはずであるから、とくに回生の若い間は小テストの回数を増やすなどして逐一の理解というところに念頭を置いて評価をすべきである。1回のテストで全てを判定するには限界がある。たまたまその部分が自分の理解できていた部分であったなら問題はないだろうが、応用されていて理解がなかなか追いつかないものに対して低い評価をするのは酷である。1年、ないしは半年という時間がかかっているわけだから、その授業の重要度というのは非常に大きく、学生が単位に注意してしまうのも致し方ないとも思える。自分の頑張り以外のところで不出来であるなどというのは、やる気の低下につながるのも甚だしい。できるだけ細かい評価の機会を与え、これでもできなかつたら落第でも致し方ないというくらいにまでなっているなら、話は別であるが、そうではない。どういった類の問題が出るのか、どういう考え方をするのが大学の数学なのか、どういった解法やアプローチを行っていったらいいのか、など(後に詳しく述べる)数学に関してはわからないことが多すぎる。またそれを理解するには時間がかかる(できる学生もいるだろうが、そういう学生ばかりではない)。もうすこし長い目で見るということも必要だろう。

数学の授業はたいてい、定理の証明が大きな部分を占める。演習や例などはあまり提示されない。それゆえに、問題形式になっているテストには元来対応していない。なので学生には自分で演習することが求められる。それは仕方の無いことではある。しかし、それを求めるのは実際上難しい点も多々含まれている。学生が頑張らねばならない部分もあるが、そうでないその他もろもろの数学に関する「どうやって勉強していったらいいかわからない」「難し

くてどこから手をつけてよいやらわからない」「どういう解法を展開していったらいいかわからない」などということまでも学生に押し付けるのは酷である。数学の問題というのは、ある程度は「形式を覚える」ところに終始する部分がある。こうこうこういう風に解く、という定石が存在する。そのあたりを積極的に提示する（すなわち、テストではどういった問題が出題されるのかということを示す）ことも必要なのではないだろうか。何の方向性も無いところから応用を求められてもなかなか出来ないのも仕方が無い。概念を考えることは必要であるが、それができても書けなければ実際点がもらえないし、論を展開・運用していくことが出来ない。応用力というのは概念・解法両方そろってはじめてできあがっていくもので、概念ばかり主張して実際紙の上でどう展開するかを教えないではわかったことにならない。

授業に出席していて常々思うのだが、学生は何かしら「虚勢を張り」「うわべはわかったような顔をして」「家で必死になって苦しんでいる」といういびつな状況になっているように思う。もちろんこんな学生ばかりではないだろうが、京大生というプライドがあつてか、「わかっている」というのが当たり前というやせ我慢的風潮が蔓延している。わからないのなら素直にわからないとしてその部分を修正するとか、いくらでもできるはずである。みんな「黙って」いて、教授はそれを見て「わかっているんだな」と認識して、結局何のためのことかわからない、うわべだけの省略的な授業だけ展開されているようでは、意味が無い。いずれにしても、わかりやすく工夫することはしすぎてもしすぎることはない。数学は誰彼にも開かれている学問のはずである。理解できる人は勝手についてきたらいい、出来ない人は受け入れないといったような風潮は、打開すべきであるように思う。

これまで述べてきたことが実際学生の生の声であると配慮していただき、是非これからの体制に参考にさせていただきたく思います。

7. 4 法学部

- 高校のときのような定まったカリキュラムに添った内容を習うではなく、自分の興味のある科目を学ぶのは非常に有意義だった。単位のことを第一に考えるのではなく、自分の関心を惹く科目を選ぶことを第一に考えて、時間割を策定するのが大切だと思った。
- 自分の求める分野と教授の研究分野がぴったり一致することはないと思った。
- 専門外の興味を持っていた分野（歴史など）を深く勉強することができて、大変興味深かったです。
- 興味のある科目や専門の基礎などを学べて有意義でした。しかし一方で単位取得のために楽勝講義もいくつか取りました。（授業に出なくてもいい、採点の甘い科目）このような単位取得が第一目的で履修した講義に対しては総じて学習意欲が沸かず、今思えば残念な履修登録であったと感じています。新入生に対してですが、そこまで単位にこだわることなく自分の興味のある講義を、無理のない範囲で取るように、と思います。個人的には体育は必修科目に指定して欲しいです。受講者が少なすぎます。

- 科目の数が非常に充実していて、自分の知的好奇心を満たすのに十分な内容で、満足している。
 - ほかの生徒との交流ができ、その意味で良かった。
 - 科目名と授業内容にギャップがありすぎるので、履修登録までの猶予期間がもうちょっと欲しいと感じた。
 - 授業内容が専門的過ぎることがあり、もう少し学生の知識量を考慮していただきたいかった。
 - 私語の多い学生や、途中入退室する学生が多くて授業に集中できないことがけっこうあった。
 - マイクを使わない教授等がいるが、実際後ろの方では聞こえていないなどの弊害があった。自分では伝わっているつもりでも、実際には聞こえてないことが多いので、必ず使うようにしてほしい。あと、教室の割り振りがあまり考えられておらず、スカスカの講義もあれば立たざるを得ないほど狭い教室等もあった。最初の講義では仕方ないとは思いますが、登録後はしっかりと人数にあった教室を用意してほしい。
- なんだかんだ行っても無事1年間を過ごすことができ、単位も無事修得できましたので、よかったですと思っています。
- 授業に面白さが無いです。前期は興味のある科目をとりましたが、どれも面白くなく、出席も減りました。後期は、刑事手続法入門は多少眠いときがあったものの、教授の説明が良かったと思います。他のいくつかは興味でとったものも有りましたが、面白くなく出席しませんでした。大学は研究機関であると同時に教育機関なのですから、教授の方々ももちろん自らの研究に励んでいただきたいのですが、どのように教えたら面白いかを考えていただきたいです。授業はどれもただの単なる知識紹介になりがちだと思います。学会ではそれでいいと思いますが、教育はそれ以上の楽しさが必要なのではないのでしょうか。
 - 一回生の間、最初に決められた語学のスケジュールに縛られることに疑問を感じていました。
- 全学共通科目の履修により、他学部の人達と会話する機会を数多く得る事ができ、又様々な分野を垣間見ることができたので、大変充実した一年間を過ごすことができました。そして全学共通科目では素晴らしい先生方によって質の高い授業が提供されていることが、よくわかりました。この一年間で受講した講義の中で特に印象的だったのは、リレー講義です。一つのテーマで、それぞれ異なるバックグラウンドをもたれる数人の先生方が順に講義するという授業形式は、大学ならではのものですが、大変面白かったです。今まで自分が思いもしなかった視点からの講義は、特に新鮮でした。時間割指定されている語学やスポーツ実習、あるいは専門科目と時間割が重なり、いくつかの講義の履修を断念せざるをえなかったのが、残念でした。
- いろんな授業を取って見たが、シラバスと違い期待はずれの授業も多かった。一方で時折おもしろい授業も発見し、その分野については教員に質問したり、課題にも文献を調べて真剣に取り組むなど、熱心に頑張った。このようなことから、「全学共通科目は自分が興味を持って自分で調べたり勉強する端緒を与えてくれるものである」、と考えるようになった。そして「いろいろ授業を取ってみて、興味を持てるものなら頑張ればよいし、興味を持てないなら

あえて無理して勉強する必要もない」とも考えるようになった。

- 自分の興味のある分野を選択して選べたことが良かった。学部の専門科目以外にさまざまな知識を得られたことは良かったと思う。語学以外の共通科目の卒業単位は取得できたが、新学年以降も、興味のある講義はどんどん参加したいと思う。

○入学時に考えていた「ウキウキ・ワクワク」といった1年間ではありませんでした。むしろ、自分が高校時代に全く興味が無かった分野の授業を受けたことで、社会・環境などさまざまな問題に対して、多くの視点を持てたので、自分なりにいろいろ考えたり、悩んだりするようになりました。

- 京大の全学共通科目は、他大学のそれと比較すると種類も多く、本当に自分の興味にあった授業を選択できるという点ではよかった。だが、授業の数が多いだけいわゆる「当たり外れ」が存在した。先生がプリントやスクリーンを駆使し、学生に興味を持たせようとした授業もあれば、教室がざわめいていてもまったく関係なく先生が自分の世界に入ってしまった授業も存在した。さらに、成績評価に関してもまったく出席せずに高い評価をもらった授業もあればちゃんと出席したはずなのにその出席点すら与えられていなかった授業もあった。いくら登録までに授業選択の猶予があるとはいえ、このような不公平な状態が続くと学生が単位の取りやすい授業の選択のみに終始し、本当に興味がある授業があってもそれをとらないという事態が発生してしまうのではないだろうか。全学共通教育機構には、こまめに授業アンケート等を行うなどしてこのような不公平感を解消してほしいと期待する。

- 当たり外れが大きいといった印象。

- 京都大学に幅広い科目があることにすごさを感じた一方で、個々の授業が狭い範囲に絞られている場合が少なくなく、その分野全体に漠然と興味があったり、概観したい場合に当該科目を選択するかしないかで迷うことが多かった。確かに、個々の授業の担当の方の圧倒的な知識量には刺激を受けたが、もう少し大きな枠組みで話をしてもらいたいと感じることが多々あった。(もちろん、そのような勉強は一人でやることも可能ではあるが。)

○私は法学部なので、2回生になると語学以外はほぼ専門を勉強することになります。なので、1回生時の全学共通科目では、法学以外の広い分野を学びたいと思っていました。登録の時点で、その授業の種類豊富さに驚いたのですが、その中で特に自分の興味のある分野を受講できて、また、知識が広がって、非常によかったと思っています。また、語学はもともと受験生時代にもっとも好きだった教科ですが、その時間も楽しかったです。特に英語でグループ授業があったのですが、みなで協力して考えを掘り下げていく授業は特に面白かったです。語学は今年度もあるので、また意欲的に取り組みたいです。

- 興味がない科目は全然聞けなかった。努力不足。もっとがんばればよかった。

- まだ専門科目に対して心の準備が出来ていない一回生時に、範囲も幅広く、内容も深すぎない全学共通科目を受講するのは、大学の雰囲気慣れる良い機会になったと思いました。

○全学共通科目では幅広い分野について知ることができ、いくつかの非常に興味深い授業を受講することができたので、それに関しては満足しています。しかし他方で内容が極めて専門

的であるにも関わらず講師の方に「教えよう」という意欲を伺う事ができなかったような授業もありました。また、全体としての成績評価には納得していますが、いくつか納得のいかないものもあり、どのように成績評価をしているのかを提示してほしいと感じました。

○教室に入りきれないときは困った。

●掲示板を作ってください。学生の立場からじゃないとわからないことが多々あるので。

●新入生がうるさかった。同じ大学生として自覚してほしい。

○授業の質の差が激しいと感じた。教員によっては分かりやすいレジュメ、声量、話し方、内容を提供してくれたので満足している。しかし、授業の内容に興味があっても、授業の進め方が気に入らず、途中で出席しなくなった科目もあったので、残念だ。また、楽勝科目が存在することに入学当初驚いた。単位認定に差があることはよくないと思った。また、語学はクラス指定だったが、クラスによって単位認定の仕方や授業内容が違う。例えば出席を考慮するか、ライティングかリスニングかなど。学生に選択権がないのなら、せめて単位認定の方法や授業内容は統一してほしい。

●幅広く提示された分野の中から、自分の好む分野、また自分が疎いと感じていた分野の授業を自由に選択できたので、この1年を通じて、知識の幅・視野が格段に広がったと思う。有意義だった。

●入学当初の抱負である「今まであまり関わりのなかった分野の講義を聞いて、色々な事を知りたい。」というものはある程度実行できたと思う。ただ、やはり文系の私には理系的な講義の中にはどうしても理解が中々難しいものもあり、それは当然といえば当然なのかもしれないが、しんどかったこともあった。それでも理系的な科目の中にも興味深い講義もあったし、総括すれば意義深いものになったと思う。

●フランス語が非常に難しかった。

●いくら授業内容がおもしろそうであっても、単位認定が厳しいようでは授業を取る気になれない。

●正直なところ全般的に期待はずれだった。表面的な程度に終わっている授業が多かった気がする。教員ともっと交流を図ることができたらよかったのではないかと今では思う。

●ゼミ形式の授業は興味深いものが多く、他の学生との意見交換等を通じて様々な見方で物事をとらえられるようになった。

●いくつかの授業は本当にすばらしいものだったし為になったと思う。

●成績評価が曖昧なので、頑張っても評価されなかったり、楽しんで単位をとれる科目などもあり、生徒のモチベーションを下げる要因になっていたと思います。また具体的な話になりますが、英語の時間に5分以上遅刻したら教室にいれないという横暴な教師や、授業が終始内容と全く関係のない雑談で終わってしまう教師もいて、教員の側にも問題があるのではないかと思います。(もちろん、ほとんどの教員はきちんと講義なさっているのですが…大学側で実際の授業内容を調査することが重要だと思います。)

●教員の研究内容の延長で授業を進めている印象を受けた。そのせいか、ただ漫然と話をされ

て要点も不明確なまま授業が終わる、という感じのものが残り残念だった。もう少し「教える」ということが重視されてもいいと思う。

○クラス指定の語学や専門とかぶってしまい、「楽しそう」と思っても受けられなかった授業が多かったのが残念でした。(仕方ないけれども) でも、自分で自由に受ける授業を選べるので、自分が興味のあることがたくさん学べて楽しかったです。

●自分が意欲的に取り組まなければ得るものは少ないと改めて感じた。逆に熱意を持って取り組めば大いに得られるものがあるのも事実と感じた。

●全学共通科目を軽視してしまい、途中から出席しなくなってしまったことを後悔しています。その後悔をバネにこれからの勉強をきっちりがんばろうと思います。あと、あまり関係のないことなんですけど、教室の机の上にサークルや体育会のビラが多すぎて、「これはやりすぎじゃないのか」と思ってしまいます。授業を受けるにあたって支障が出てしまうと思いました。

○大学の授業は様々だな、と思いました。必死で勉強しなければならないものもあれば、そうでないものもあります。でも、大学には様々な人がいますから、それはそれで良いのだと思います。

●やはり学生の立場からすると、全学共通科目は、専門科目より軽視しがちで、十分に取組めたとは言いがたい。しかし、その中で、興味のある科目にも触れることが出来、様々な教養を得られたのは良かったと思っている。

●英語の授業内容を充実させてほしいと思います。特に理解度を考慮してもらいたいです。学生の英語力について調査されてみてはいかがでしょうか？かなり低いのではないかと思います。

●ある程度の常識を身につけることができた。

●高校まで勉強してきたのとは比べ物にならないほどの様々な分野の学問があることや、それまで学んできたことが正しくなかったり他の説がたくさんあることがわかり、大学の勉強は奥が深いと思った。

●労使関係論のように分かりやすく、面白い講義がある一方で、あまり興味が持てなかった講義もあり、講義間での差がかなりあると感じた。

●教授の教科書を買わせる授業は、概して教科書からの逸脱がないため授業に出席する意味がなくなるから、行きたくなくなる。しかし、出席を成績評価に加えるとある科目に限って、計画性や熱意の乏しい授業が多いため、うんざりする。特に英語に関して。出席云々よりもどれだけ読めるか書けるか聞けるか話せるかが重要な観点だと思うのだが、英語では特に出席が重視されるものがあるのはおかしい。また受験のときよりも簡単な本を用いた授業があるのはおかしい。聞くこと、話すことを一年間まったく訓練させない授業があるのはおかしい。実力主義の受験だったのだから、実力主義の授業へと継続されるべきだ。この一年間は、テスト前に読んだ教授の書いた教科書からの知識と第二外国語の授業からしか大学からは得られなかった。大学の授業以外の部分、つまり社会の一員として初めての体験となったアルバイトや、そのお金で行った海外旅行、様々な分野の業界にいらっしゃる方との話、講演会

等からの方から得たことの方が自分の人生の財産になった気がする。

- 様々な知識を吸収できて非常によかった。
- 自分にとってはまったく新しい考え方を、全学共通科目の受講を通して感じることができました。
- 大きな講義室の場合には、ざわつきなどがあり授業が聞きにくかった。しかし、先生方の授業の中には興味を引くものなどがありよかった。
- 自分のしたい勉強について、漠然としていたものが少し明確になってきました。まだ興味がある授業があるので、今年も受講したいと思います。
- 専門科目と違わぬほど密度が濃く、充実した科目もあれば、教員が黙々と板書をするのみ、もしくは小声でしゃべるのみという科目もありピンキリだと感じた。しかしパンキョーだからと単位だけを目的にせずに集中して授業に取り組めば、かなり役に立った科目もあったので単位がそろった今も2、3コマ受講している。京都大学にはさまざまな科目があるのでむしろ単位がそろってから、気楽に興味のままに受講すると面白いと思った。
- 幅広い知識が得られてよかったと感じた。
- つまらない授業も多かったですが楽しい授業もありました。とは言いましても授業を面白いと感じるかつまらないと感じるかは、学生の興味ややる気に左右されると思います。しかし、学生だって常にモチベーションが高いわけではありませんし、すべてのことに対して興味があるわけではありません。やる気が出てきたときにそのやる気を注ぎたくなるような授業、あるいは興味があまりなかったけれど新たな興味を引き起こされるような授業、そのような授業をこれからも全学共通科目に提供していただきたいです。
- 語学でのクラスメートとの圧倒的な能力差に恐怖すら感じた。とりあえず周りからハジかれずにすんでよかった。
- 受講科目の全てで満足が得られるというのはさすがに不可能だと思うが、そのうちいくつかでも興味の引かれたもの、あるいは刺激を受けるものがあればよいと思う。そして自分の1年を振り返ればそういう授業を受講できたので幸せだったと思う。
- 専門の授業と比べると、講義の担当教授によって内容の濃さにバラつきがありすぎる気がする。

7. 5 経済学部

- 特になし。
- 結局単位はとれたが、期待していた広い教養は身につかなかった。もっと学生の勉強意欲をそそるような授業の仕方を工夫してほしい。
- パンキョーは楽勝科目で固めてやりたい勉強は自分で勝手にやったほうがはるかに有意義。
- 特にないです。
- 自分が専門としていない分野を選択するとテスト等では詳しいことを聞かれ大変な思いをしました。

- 文系学生でも今のうちに理系分野の一端に触れておくことが将来役に立つかもしれない。最初はそんな打算的な考え方で全学共通科目を取っていたが、授業を受けるうちにそのような考え方は薄くなり、単純に今まで知らなかったことを知ることでの知的好奇心を満たすという行為自体に引きこまれていった。
- 大講義室等での混み様をなんとかしてほしい。
- 教授の方々の深い学識に触れて非常に感銘を受け、学問に対して強い意欲を持ちました。
- 私は、10月、11月あたりになると、全く授業に出る習慣が無くなってしまいました。勉強する習慣も無くなりました。そのことを今になって非常に後悔していて、勉学に対して主体性を持つこと、これが何よりも大事だということを痛感しています。これは、後期に単位がほとんど取れなかったからこそ、感じることなのかもしれません。間接的には言え、勉強意欲を掻き立ててくれる全学共通科目に感謝します。もっと勉強します。
- 音楽理論を扱う科目が無いこと。
- 一般教養科目はもっと高校のときの授業のように楽しいものだと思っていた。大学生活がすすむにつれてただ単位をとるためだけのようになってしまっていたと思う。ただ単位を取るためだけでなく、自分の興味のある分野、学習したい内容をもっと積極的にとるべきだった。
- 全学共通科目の授業は、学部の科目ほど専門的ではないものの、高校までの授業と比べて大変奥深く、またすそ野が広いものだったので、楽しかったのはもちろんのこと、自分の知識の幅も広がり、非常に良かったと思います。
- 単位をとるための履修科目選択に終始してしまい、得られるものが少なかった。
- 経済学部では***が推奨されていて前期はそれに従って履修しました。しかし教員は学生が経済学部であることを全く考慮せずに理学部の数学を教えてきました。私は経済学には数学の知識が必要であることを十分認識していたので微分・積分や線型代数などの基礎学習をすることをこの授業に期待していたのですが、結果的にはこの授業からは何も得られませんでした。この教訓から後期は***を履修しませんでした。このようなことがないようにしてほしいと思います。希望としては文系向けの線型代数の講義が存在してほしいと思います。総合的には全学共通科目にはあまり期待せずに自学自習をすべきだと思いました。
- やはり、一般教養科目は専門科目に比べて最終的に身になることがあまりないと思われるので、前期の終わりごろにはすでに軽視していた面がある。また、楽に単位をとることができる科目に集中的に学生が集まる傾向にあり、学生の墮落を推進してしまう恐れがあると考えられる。ただ、語学に関してはその学習が必要であるが、それにはクラス単位で異なる授業が与えられるために、学生全体の中でかなりの学力差が生じてしまっている可能性がある。したがって、A、B群（文系用）のものは、その授業数を減らし、一つ一つの授業の質を高め、語学に関しては、クラス単位を超えた、たとえば学部単位での成績評価、授業にすべきであると思う。
- はっきり言って、かなり自分の知識レベルを向上した絶好の場であったことは間違いがない。しかし、教育の場で生徒に対して学問の興味や好奇心を持続する一つの方法として成績評価

はかなり重要であると考え。その際、たかがレポート一枚で半年の講義を踏まえて成績を評価する科目において、1ヶ月後に思いもよらない成績が返ってくる。そこで「異議申し立て」をしようとするも、成績の詳細に関しては問い合わせができない。教授からのコメントは当たり前だが、「優」・「良」・「可」・「不可」のみ。それではあまりにも手抜きというか、潜在的に学問を追及しようとしている学生に対して悪影響である。もちろん成績だけにこだわる必要はない。しかし、教育の場においてこのようなある意味、学生に対する軽視した見方をなくすには成績の詳細情報の提示、教授自身のコメントを伝達する必要性が今後の潜在的な人材育成にとっては重要なのではないだろうか。

- 興味がある科目は多いものの、教授と生徒との距離が遠く感じられた。教授の好きな話を延々としているような感じ。生徒がついていけないです。シラバスに書かれていたものと違っていると、特に話が理解できない。前提としている理解が必要なら、シラバスにきちんと細かく記載してほしい。
- 授業を受けなければ決して知ることがなかったようなことをたくさん知れてよかったと思う。
 - 少人数のゼミを主に受講しました。期待通りの勉強ができてとても満足です。素晴らしい教授や学生に出会えたことがいい刺激になりました。
- あまりにも様々な分野があって、迷いすぎた。
- 取りたい授業が語学などかぶりすぎ。
- 文学的教養に関する授業には満足しているが社会科学系の一般教養の授業に対しては入門レベルを超えている。自習で補えないレベルで授業をするのは勘弁して欲しい。
 - 自分で自由に時間割を組む、というのは大学に入るまでしたことがなかったけれど、その作業を通じて自分はやっぱり勉学が好きなのだなあということが再認識できた。やる気が最後まで持続したわけでは決してないが、自分がいろいろ考えて選び抜いた科目なので、少なくとも愛着を持って授業を受けられた。また、高校のしっかりと指導要領が組まれた授業とは対照的な、どちらかというと教員の気分次第で進められる大学の授業には、はじめはイラついたりしたが、それだからこそ伝わる学問の楽しさもあるのではと今は思える。自分的には、これから先学んでいきたい分野がいくつか発見できたので、それだけでもこの一年間般教をやってよかったなあと思う。
- 単位のために勉強している感が否めなかったのが、今年はこの感覚を払拭できるようやっていきたいです。
- （大学内に知人がいない）地方出身者にとって事前情報が少なすぎる。
- 授業によって面白さが全然違うことに驚いた。
- 先生によって授業の内容というか質の差が激しすぎると思いました。全体的なレベルの底上げを希望します。
 - パンキョーが一応全部そろったのでよかった。でも専門と語学をほったらかしにしてしまったので、今年はちゃんと補っていきたいです！
- 第二外国語を落としたので焦っています。

- 予想以上に興味深い授業が多く、知的好奇心を満たしてくれた。自分が言うべきことではないかもしれないが、「授業が面白くない」という感想を抱く原因は、そのほとんどが学生の熱意不足に起因するのだと思う。受講する授業についての些細な予備知識を蓄える試みすら怠り、空っぽの脳みそに全ての知識を与えてくれる予備校のような授業を大学に来てまで求める学生たち。こうした姿勢を叩き直していくこと以外に、真に有効な改善策はないように思う。
- もっと自分自身が主体的に取り組むことも必要だったと思います。
- 専門以外の内容は教養として興味のあるものを選んだが、期待はずれの科目もあり、もっと学生が興味を持てるような授業づくりに取り組んで欲しいと思う。
- 全学共通教育は教員によって熱意に極端に差があるように感じた。
- 一体何の意味があったのかいま一つ理解できません。
- 高校までとはまったく違うことを学んだり、知ることができて満足している。
- 興味がある授業でも、教員のやる気が無かったりするのが残念だと感じた。熱心な教員の授業は、自分の興味がある無しに関わらず授業に出ようと思う。
- 現在、専門性が重視される傾向がありますが、それでも幅広く学ぶことの意義というもの決して消えることはないと思います。
- 怠け癖がでてしまった。
- やはりある程度の出席と自学自習は大切だな、と。
- 特になし。
- 自分が興味を持っている科目を選んだので全体的にみればよかったです。ただし教員があまり学生とのコミュニケーションを図ろうとせずただ授業を進めていくだけという形の講義が多数あったと思います。そこを少し改善すれば授業はもっと楽しくなるのではないのでしょうか。
- 教員があまり指導熱心でない場合は、学習意欲が削がれ授業を受ける意味がないのではないかと考えてしまったりしたが、自信が興味のある授業については、自身の考え方などの視野を広めてくれた気がするので有意義だったと思った。

7. 6 理学部

- 私は大学での学習がそれまでよりも自主性を求められるものだと感じ、ただ講義を聞いているだけでなく、学習内容についてしっかりと自分で考え、また、わからないことやより深く知りたいと思ったことについて講師の方に質問したり、友人と議論したり、専門書を読んだりすることが以前よりも多くなりました。そして、そのようなことを実行する中で、自主性を求められ、自由に学ぶことのできる学習環境においては、とても強い興味や関心が必要不可欠なのだと改めて感じました。
- これまで全く知らなかったことにも触れることができ、視野が広がりました。
- 学期開始時には様々な授業を登録した。自分の興味が続くものは続け、続かなくなったもの

は途中から授業に出ず、そうしたことで全体的に有意義に時間を使うことができた。講義内容を身につけるには二つの方法があると思う。しっかり毎回の講義に出席し、毎度復習を欠かさないこと。テスト前に講義プリントを参考にしつつ、集中的に一から勉強をし直すこと。知識や考える力を身につけられるのであれば、どちらを選んでもいいのではないだろうか。京都大学の教育基本方針(?)が、学生の自主性を信頼した上に立てられているものであることを信じている。

- 自分が将来何を専攻するのか、もう一年かけてじっくり考えてみたいと思った。
- 単位を取るためだけに受講している人が多く、テンションが上がらなかった。
- これからは真面目に授業にでようと考えています。
- 社会におけるいろいろな考え方や幅広い知識を身につけることができたと思う。特に、一見関係なさそうな分野でも思いがけないつながりがあることを発見できたこともあり非常に興味深かった。履修登録の抽選で落ちたのは残念だった。
- この一年間は全体として興味あることが多く楽しく勉強できたと思います。ただ科目数が多くて一つ一つに十分な勉強時間を割り当てることも出来なかったです。B群はほとんどがクラス指定科目で担当教員の選択ができないので、授業内容はあまり差がないと思いますが、試験や成績評価にばらつきがあると思います。
- 理学部の外国語履修の選択の幅が狭すぎる。
- 持つべき教養があまりにも広いと感じた。
- それまであまり興味のなかった分野の授業を受けて、その分野に興味をわいてくることがありました。それがうれしかった。
- 自分のあまり知らない、いろいろな分野のことを研究している先生がいることを知ることができた。
- 授業を聞くより自分で本を読んでいるほうが知識が付く、特に授業に出席するメリットをあまり感じなかった。
- 専門外でも興味深い学問分野を発見できた点がよかったです。
- 授業自体は非常に面白いと思います。しかし、先生の中には、学生の知識を前提にした授業をしていらっしゃる方もいます。今は指導要領もかわっていますし、その辺の考慮をしてほしいです。
- 良くも悪くも「大学の講義らしい」と思った。自主性と放棄は表裏一体どころか同一語句だったようである。機会があればこちらから接触していくべきであったと思う。
- クラス指定科目制度はとても不満だった。
- 理解が困難な科目もいくつかありましたが、大体はひとりで解決できました。ただ、明らかに専門的過ぎるところに立ち立ったせいで興味が薄れてしまった文系科目もありました。
- 高校までは先生との交流も盛んだったが、大学に入ったとたん完全に「ほったらかし」を経験することになった。しかしおかげで、友人と連絡を取り合って勉強会を開いたり、自分で好きな分野の勉強を一人でしたりできた。この体験が将来研究室にこもるなりしたときに役

に立つんだらうと期待したい。残念なことに一緒に勉強会を開いた友人すべてが語学を取ったのに、僕だけ4個中3個も落とすことになってしまったのには対策を考えないといけない。

- 勉強って言うのは案外むずかしい。
 - 勉強における不満というものはありませんでした。ただ、A群芸術系科目がやはり充実していないなと思います。たしかに芸術系大学ではないので、仕方がないのかもしれませんが、音楽系科目がもっと増えたらいいなと思います。
 - 学校とサークルとバイトとかで充実してた。
 - 興味の無い講義を取るべきではないと思った。
 - 自学自習の重要性をあらためて感じた一年間だった。
 - 自分の未体験の分野は勉強法がよくわからないので、手取り足取り教えてほしいわけではないですが、先生方が自分がどのように勉強したかということなどを聞けると参考になるのではないかと思います。高校の指導要領などを考慮してくださっている先生は多いですが、高校では表面に触れただけで本質を理解していない部分をさらりと流してしまうのでいつの間にかわからなくなる点が多々あります。
 - 単位はほしいので出席するものの、聴覚による理解力に欠けているようなので理解できないことが多くやる気がなくなる事が多かった。
 - いろいろな科目が存在していたので授業には大変興味が持て、楽しかった。また、様々な知識を身につけることができてよかった。
 - 成績評価の基準を明確にしてほしい授業があった。あと、語学の授業が厳しかった。
 - 特にありません。
 - 教科ごとに内容の充実度に差がありすぎると思う。
 - 自由度の高い大学の勉強はなかなかしんどい。
 - クラスごとに割り当てられる科目の良し悪しに差が大きかった。自分の場合、***語文法の教官が正直なところ最悪であった。また、理学部生である自分は系登録までに語学を一定単位履修しなければならないが、他の科目に比べて語学の負担が極めて大きいものを感じられた。語学に関しては系登録後の履修も認めるなどの措置をとることが必要に感じられた。
 - A,C群の全学共通科目を受講して、理学以外にも様々な世界があり、それが意外と面白いと分かった。また、それらの多くは理学にも繋がっていると分かった。勿論、B群科目でも一特に地球科学実験では一班員や先生と共に実際に手足を使ったデータ取得、解析、発表を行う中で、楽しさや現場の醍醐味の一端を味わう事ができた。
- 幅広く知識を身につけることができてよかったと思う。
- ある程度苦勞しないと身につかない(いわゆる楽勝科目は後に残るものがあまりない)ってことかな。教室の広さに対して学生が多すぎると、行く気をなくす。その辺改善してくれたらもっと出るのになあ。
 - 多くの授業があり、幅広い分野を学べることは嬉しかったのですが、学生の予備知識等をあまり考慮してくれない授業が多かったので、実際には取れる授業が制限されてしまっていた

ことが少し残念でした。

- 専門的すぎる科目が存在したのが残念でした。もう少し、平たく、興味が持てる授業を増やしたほうが良いと思いました。
- 自分の専門外であるA群は全体的に満足。楽しいものばかりだった。専門のB群は難しすぎる、分かりにくすぎるものが多く、意欲が沸かなかった。
- 受験勉強で失った体力の回復が十分にできました。
- 進歩のない1年でした。
- 自分の不勉強で前期の内容が理解できないまま後期に進んでしまったので、後期では授業の理解にも苦しんだ。その反省から、自分で勉強する時間を確保するために部活をやめた。正直なところやめたくはなかった。
- 理系教科はもちろんですが、文系科目も意外と面白いな、と思いました。幅広く学べたので楽しかったです。
- いろんな授業や教師の方がいて、教養が増えました。
- 自分の興味の薄い分野でも、基本的に知識欲が満たされる、あるいは教養が身につくという点で受ける価値があったように思う。また、特にA群科目であるが新たな哲学・考え方に触れることができ、少なくとも全く無意味な講義はなかった。
- 興味の持てる授業をとることが最も大切だと思いました。興味の持てる科目なら、勉強するし必然的に成績は良くなると思います。
- 自分にとって興味深い授業は専門内、外問わず大変面白かったし、幅広い分野が全学共通科目として網羅されていた。そういう意味で大学側にはこれといった落ち度はなく、感謝しています。ただ、サークル、バイト、友達付き合い、といったものとのバランスをとるのが難しく、勉強したいのにできない、自己嫌悪に苛まれたりと色々と悩みはありました。
- 自分の「不甲斐なさ」を痛感。
- あんまりおもしろくなかった。
- 特に語学について。語学が必修であるにもかかわらず、担当教員のレベルが非常にお粗末なことが多い。これが、語学の勉強の意欲をそいでいる気がする。また、語学などはクラスが最初から指定されているから、よけいにそれが助長される。そもそも、クラス指定にするメリットは大学側であって、学生側にはデメリットしかない。せめて、CALLのような授業の選択肢を増やして欲しい。
- 正直授業についていくのはしんどいです。授業についていくためには授業外での予習・復習がないと二年以降しんどいと思います。(人によっては大丈夫なのかもしれないが少なくとも私はだめでした。) ある程度のあきらめは重要かもしれないです。ついていけないからといってくじけず、自分のスピードで自分で教科書買って勉強するのも解決の糸口なのでは、と思います。
- 特にありません。
- 自分の専門だけではなく、自分が興味あるほかの科目まで受けられるのでよかった。

- 専門以外の授業がメインだったので、自分が興味のある科目を多く受講できてよかった。

7. 7 医学部

- 高校まででは出来ない知識を深めることができ、これからの自分を考えるよいきっかけとなった。

○入学前は、大学の授業は難しいものと思っていましたが、思った以上に難しい授業や、簡単な授業があったり、授業の受け方も人それぞれで、面白かったです。ほとんどの授業を欠席することもなく、たまにはサボりたくなったり、サボる人に、試験の直前にノートを取り上げられてコピーされ、恨めしく感じたりしましたが、出席しとおしてよかったと思いました。専門授業に入って忙しくなる前に、専門以外の知識を吸収しておきたくてがんばりましたが、授業以外にも、レポート作成などで、パソコンの使い方になれたのが、良かったです。

- 問6でも答えましたが、ほとんどの授業がスライドを使った授業でした。確かにスライドを使えば授業の進行がよりスムーズになります。しかしノートを取りたくても取れないというのが実情で、また手を動かすことによる刺激がなくて、眠くなるが多かったです。スライドを使うなというのはさすがに無理があると思うので、スライドは臨機応変に使うとして、もっと黒板を使った授業を展開して欲しいです。また成績評価が筆記試験のものは、授業中に演習問題などを出して、試験勉強の効率をあげる工夫をしてもらいたいです。

○鬱々とした一年間でした。学部専門科目の予習に追い立てられて、受けた講義を潰して予習時間に充て、受けた授業を見つけては、クラス指定の語学によって阻まれて、自分の好きな分野のものを選択しようにも、学部によって指定された分野の単位数を数えると、取っている暇はないと考えて、何度もあきらめた一回生の春。今よく考えてみると、半分以上は、選択必修科目の意味とシステムをいまいち理解できていなかった自分のせいなのでしょうが。語学や選択必修科目のクラス指定というものは、学生が自らの一番興味のある、一番受けたと思っている講義を取るに当たっては、足枷以外の何者でもない、とさえ思えたものでした。しかし、大学の講義というものは、一番面白いのはシラバスなのでしょうね。実際に受けてみると、思っていたほど楽しいと思えるものはなかったのです。喩えインフルエンザになっても、這ってでも行くと思えた講義は、週に2コマぐらいでした。それでも多い方なのかもしれません。2回生からは、人生で最後の、一番暇で有意義な時間のある時を、学問の大海におぼれて過ごしていきたいものです。

○幅広い分野に関して授業が選べるのが良かった。しかし、専門と時間が重なり、興味はあったが、履修できない科目も多かったので授業回数を増やしてほしい。

- 全学共通科目の取得単位数が少ないと医学部専門科目の学習が遅れ得るという状況が理解できない。自分の場合は1年で全て揃ったが2→3回生に進級する際のA群20、B群20のノルマは不要だと思う。あと選べる第二外国語が少なすぎの気がする。

- 高校と違って参加が自由なので、モチベーションを持続するのが難しかった。

○何を学ぶ授業なのかよくわからないままの授業もあったので、授業の主旨が揺るがないよう

- なしっかりした興味深い授業をしてほしい。
- 先生の専門分野の授業となると、生徒の知識に関係なく、先生にとって基礎的であると感じることが当たり前のように出てきて、生徒を放置して自分の話をどんどんしてしまう先生がすごく多い。
 - B群の取りたい授業がクラス指定や専門と被っていると残念になる。
 - 今後あまり関わらないであろう分野も学べてよかったです。
 - 一見、自分の専門分野とは関係がないように見える専門分野以外での講義の中でも、興味深い、様々な知識や教養を学ぶことができ、非常に満足するものであった。その1年間を決して無駄にはせず、今後に生かしていきたい。
 - たくさんの科目の中から自分の好きな科目を選択して受講できるのはすばらしいと思う。
 - あまり自分で学習する機会がなかったので、そういう機会を増やしてもらいたいのと思いました。恥ずかしながら、言われないとできないので…。がんばって勉強したのが、テストの点などに反映されるととてもうれしかったです。また、後期の始めころに、学習に対する意欲が衰えてしまい、学部から履修を強く推奨されている数学基礎Bなどが履修できなかったことをすごく後悔しています。
 - 特に単位認定方法が定期試験の場合、具体的にどのようなことをまず学生側に理解してほしいのかということを示唆してもらえないと試験対策において大変困惑する。
 - 後期になって非常に興味を持てる授業に出会えてよかったと思う。
 - 興味がありそうな授業は人が多くてうるさいものが多かった。レポートだけじゃなくてやりたい人には自学自習できるものを出してもよかったのではないかと思う。
 - 特になし。
 - もっと熱心に授業に臨んでいけば得られることも多かっただろうに、と残念に思っています。京大は単位認定が甘いので、これからもっと勉強しないとダメになるなと思って、2回からは勉強を頑張るようになりました。
 - 基本的に受験が終わって開放された年だったので、のんびりと授業を受けれたのがよかったとおもいます。
 - 自分の専門分野以外の様々な分野に触れることができたのでとても楽しかったです。
 - 行きたかった大学にいけず、学部も共通事項の全くない所に入り、大きな絶望感を抱いて、何をするにも意欲がわかないまま一年間をすごしていた。単位欲しさに出た後期の集中講義の真菌自然史の授業で意外にも来期は頑張ってみようと思えるようになった。今でも大学を辞めて働こうかと思うときはたくさんあるが、その感情を抑えて頑張ろうと思う今日この頃であります。
 - 大きな総合大学という特徴を生かして、自分の専攻に関わらず自由に授業を選べたことが嬉しかったです。専門との兼ね合いのためにあまり試験などが厳しいものは避けてしまったけれども、もっと色々な授業をのぞけたらよかった、とも思います。
 - 採点基準が不明確。

- ほとんど医療系のものをもってしまって、あまり幅広い知識がもてなかったのもっと色々な分野のものをとればよかったと思っている。
- 全学共通科目で学んだことが専門の分野にも役立った。ただ、人気のある講義とそうでない講義があり、人気のある講義の授業では、教室がいっぱいになってしまって、環境があまりよくなかったと思います。

7. 8 薬学部

- 現在のような授業内容が改善されないのなら、一般教養科目は必要ないと思う。
- 国際交流科目や英語講義の種類がもっと増えたらいいなと思った。
- 噂には聞いていましたが、A群の単位のあまりの楽勝具合には少し驚きました。
- 全学共通科目は自分の専門にとらわれずに受講科目を選択出来るので、自分の専門以外にも興味のある人はとても満足できると思う。全学共通科目の異なる教科間で、内容がリンクしていることもあり、あらゆる学問は互いに関係しあっているのかもしれないと感じた。
- 履修登録の仕方が面倒だと思うこともあったけれど、時間割を作る過程もそれなりに楽しかったし授業ももちろんのこと楽しかった。
- 講師の方々との関わりが少ないのが残念でした。
- 授業によつての難易度の差が大きすぎるのではないかと。興味のあるものは楽しくできた。
- 京都大学でしか学べないようなことが多くよかったと思う。
- 真面目に取り組めばたいていの科目の単位は取得できるが、それでも履修できない科目のある自分に対する不甲斐無さ。
- 幅広い知識を身につけることができたことによって、将来自分の進む道の選択肢が広がったと思います。しかし、そのため迷うことも増えたので少し不安です。
- 科目によるのですがシラバスに書いていた内容から想像していた授業内容とは異なる場合が多く、満足できなかったことが多かったです。教員の方々が何を専攻してられるのかということもひとつの手がかりになると思います。
- 履修登録のとき、どの講義を取るかで非常に迷いました。同じ講義名でも、先生によって授業内容はぜんぜん違うし、言ってしまうと単位の取り易さもぜんぜん違うので、けっこう慎重に履修登録した覚えがあります。どの講義をとるかというときに、なにか指標になるようなものがあればよかったなと思います。
- 所属学部学科の学習内容に関係があったりその基礎となるような講義は、履修が指定されている講義と被らないように初めの2年間は考慮して欲しい。
- 必修科目が面白くないため、授業が苦痛であった。もっと自由に選べると助かる。
- もっと学生、教師が考えを述べ合えるような講義(ゼミ?)が多くあれば良いと思った。

7. 9 工学部

- はじめは、どうして大学に入ってまでも専門外のことをしなくてはならないのかと思いました。でも、京大では単位が降ってくるといわれるくらいなので、興味がそんなにない人でも卒業はできるし、興味がある人はきっちり受けられる、そういうシステムになっているんだなど感心しました。
- A群とB群で評価の厳しさが全然違う。
- シラバスを見ても一言書いてあるだけで、実際履修してみないとその科目の内容や成績評価の方法が分からないものが多く、先輩から聞いたりした楽勝科目に走ってしまった。もっとシラバスが明確なものなら、履修する際自分で意欲的に決定できたと思う。
- 今まであまり興味を感じなかった経済学に少し興味を持てるようになったと思う。
- もっと他の学生と絡みたかった。
- 自分でやらなければ何も身に付かない科目もあれば、ただ課題をこなしていればよい科目があることが分かった。前者は文字通り楽ではある。後者はある意味で教育熱心であり、高校や予備校と同様、あまり考えなくてよいという意味で楽である。どちらを選ぶのか自由が与えられるのが大学であり、前者を好むきらいがあるのが京都大学という所なのかと思った。
- 好きなことしかする気がなかったので、行かなくなった科目が増えてしまった。
- 一つのをやり続ける大切さを学んだ。
- 基礎化学実験の内容が、高校の時に結果だけは覚えたものが多かったのだが、実際に自分の手でやってその通りになった時は楽しかった。
- 小中高での勉強とは違い、大学での勉強は自主的に勉強する事が求められるということが良く分かりました。大学での勉強は受験勉強とは違った楽しさがあると思います。これからも向上心を高く持って勉学に励んでいきたいです。
- 複数開講されている科目の授業内容を統一し、授業名と内容が対応するようにしてほしい。シラバスは共通になっているのに別の担当者クラスで全く違う内容を教えていることが多かった。履修登録時に混乱を招く恐れもあると思う。現段階では、微分積分学（理学部）と微分積分学（医・工学部）と一部の科目だけ分かれているが、これをたとえば、基礎有機化学（工業化学科）などと分けてもらいたい（工業化学科ではクラス指定以外の基礎有機化学は単位として認められておらず、間違えて履修したりシラバスを読み違えたりする可能性もある）。各科目の授業内容については各担当者の個性があふれ、楽しいものが多かった。「専門の講義でないから話せませんが…」といった話はなかなか耳にすることができず、「全学共通」の意義を感じることができた。周りの学生はどうしても所謂「楽勝科目」に流れてしまう傾向にある全学共通科目であるが、私にとってはどの講義も興味深く、これからも楽しい授業作りを期待している。来年度もできるだけたくさん授業を取りたい。
- 勉強はとてもむずかしかったです。サークルに入れて友達ができてよかったです。
- 僕はポケゼミがよかったですと思います。プログラミングを使用する講座でプログラミング初心者の僕にはきつかったのですが、自分の興味を持てる分野だったのでとても楽しかったです。

- A群教科では、今まで勉強したことのない様々な分野にふれて興味を持ち、さらに書物などにより知識を深めることができた。B群科目では、将来の研究活動へとつながる基礎をしっかりと学べたのでよかった。
- 工学部などでは、B郡のうち単位認定されるものがかなり限られていた。このため、時間的にも自分の興味のある科目が履修できなかった。本気で転部を考えた。今でもその思いが消えることはない。またクラス指定というものがあるため、週に1コマしか開講されない授業に出ることができなかった。確かに特定のクラスに集中することはいけないが、ほかの授業を受けたいという理由を特別履修届に書いても受け取りを拒否するのはどうかと思う。なんのために全学共通科目を履修しているのかわからない。専門分野なんていくらでも勉強できる。全学共通科目はいろんな興味ある科目にふれることで視野を広げるためにあるのではないのだろうか。そのあたりをよく考えてもらいたいと思う。興味がある授業を受けられないということは一番あってはならないと思う。
 - この一年間で自分が何を得たか分からない。
 - もっと勉強しておけばよかったという科目がある。
 - 結構真面目にやっていたのに59点で不可だった***は厳しいと思いました。
 - もう少し意欲的に講義にのぞむべきでした。そうすれば、もっと知識が身についたかも。
 - いろんな生徒がいて真面目に出席している人間は損をしているのではないかとずっと悩んでいました。
 - 特に「これは役立った」という授業はなかったが、とにかく「大学の授業や雰囲気慣れる」という意味においては、全学共通科目は非常に有用だったと思う。
 - 数学系のB群はわかりにくく、自分自身がやる気になり、努力しない限りなかなか理解できない。
 - 結論として、高校までで言われていたこととは異なり、(それは京都大学だからなのか)勉強することが大切だということが一年を通じてやっとわかった。
 - 全学共通科目はそれほど授業に出る意味がないと先輩から聞いていたが、いざ授業にでてみると、その授業を通して今まで知りえなかったことを知ることが出来たこともあったし、また、大学における勉強の姿勢などを学ぶことが出来た。しかし、授業において、学生と先生の距離は遠いと感じることがしばしばあった。
 - とりあえず一年間やるべきことはできたんでほっとしてます。
 - 全体的に成績評価などが漠然としすぎている気がした。特に出席もとらなかつたりする科目においては、不可解なことが多々見受けられる。
 - 自分は工学部の学生ですが、最近になって脳に興味がわいてきました。こういったときに、例えば脳科学概論といった授業をとろうとしても卒業するための単位にならないというのが少し不満です。また、特に工学部は推奨科目が少なすぎると思います。総人ほどではないにしろ、もうすこし専門以外の知識を、進んで吸収したくなるようなシステムを作ってくedされればと思います。

- 京大に入学して前期の時間割を決める際、文系科目でも自分のためになるような講義を取り入れたはずだったが、実際講義を受けてみると先生がしゃべりたいことだけしゃべって終わりみたいなものもあり、現実が期待を裏切る形となった。もちろんすべてがすべてそのような講義ではなかったが、思ったより多かった気がする。また、一回生という事もあり学科の専門的な内容が少なかったのも残念だった。せつかく一生懸命勉強して京大に入り、さあ頑張ろうと思っていたら上述のような講義をされ、出鼻をくじかれた感がある。もう少し学生側の身になって考えてくれればありがたい。
- 自分も含めて、学業に対する意欲が低いと感じた。こうなりや自己啓発（変な方向にはいつてないつもりです）するしかないと思い、自助論読んだりして考え中。
- 授業に頼るな(=独学でしろ)という事。
- も一ちゃんにかつたうれしかった。
- 楽しかった。
- 興味のある授業でも、教員によっては授業が面白くなくあまりやる気の出ないものがあった。専門外の授業でも、とてもためになるものもあったと思う。
- 自分は馬鹿であるが、頑張ったから、教官方が情けで単位を下さったことも多々あると思われるので、非常に申し訳ない気分であります。これからは、教官方に徒な迷惑をかけないようにしたいと思います。
- 京都大学が自由な大学だと言われているわけがわかりました。京大ではある程度の環境が整っているので学生がその気になればしたい勉強は出来ると思います。後は学生がやる気になるかどうかの問題ですね。
- 楽しかった。
- 熱心な教官が数多くいる一方で、授業を通して学生に興味を持ってもらおうという工夫ややる気のない教官もいて当たり外れが大きいという印象を受けた。
- 一般教養の学習で一番大事なことは、自学自習の精神をもつこと、教員というのは、その道しるべとなるものだと思います。
- 初めはヤル気があった科目でも、だんだん興味を失ったりめんどくさくなったりして、授業に出席しなくなるということがあった。半年間、1年間通してモチベーションを保つのは、意外に難しいことだと思った。
- 今まで嫌いだった分野のおもしろさに触れる事が出来た。サークル活動が忙しく、興味のある学問にあまり触れられなかった。
- 良い講義と悪い講義がハッキリ分かれていたように感じられた。**先生の英語はとても興味深い内容で、また先生の熱意が感じられて素晴らしいと思った。一年間この授業を受けて、私の学問に対する意欲がかき立てられたように感じる。**先生の線形代数学も良かった。板書はうまくまとめられており、また先生自著の教科書も分かりやすく、理解の助けになった。一方、**先生の微積はひどかったと言わざるを得ない。他の教官のもの比べて試験の難易度が高すぎた。かなり理解して望んでも合格点を取るのがやっとだった。**先生や

* *先生のような講義をする教官がもっと増えてほしいと思う。

- あまり楽しい大学生活ではなかった。
- 高校の時とは違った感じの授業が新鮮に思えた。
- 高校のときの学習と違い、やるもやらないも自分次第であり始めは少し戸惑いを感じた。受けた講義の単位を全て取れてほっとした。二回生ではもっと自分の専門科目に力をいれたいと思った。
- 成績につながる小テストやレポートがある科目では、ある程度の量の勉強ができ、理解につながった。逆にレポートなどがなく、期末試験だけの教科は、試験対策だけの勉強になり、理解度が浅かったように感じる。
- 前期は比較的単位を取りやすいと言われる科目を中心に履修したため、かえって学習意欲が湧かず、後期はその点を反省して自分の興味のある講義を履修した。そのおかげで後期は講義にもしっかりと出席でき、一般教養がかなり有意義な時間になった。また、講義の中には明らかに大部分の学生にとって興味が無く、ほとんどの学生が単位取得のためだけに履修している科目もある。それらのことから、僕は全学共通科目はもっと学生の興味を考慮した内容にして欲しいと思う。
- 自分にとって無駄な科目はなく、広く物事を知ることができたと思う。
- 勉強は自分でしないといけない。
- 幅広い知識を得ることを目標にたくさんのコマ数を取った。たくさんの人がやっている「単位のためだけに出席すること」というのはよくないことだと考えるし、評価は試験前だけでなく学期全体にわたって努力した人に与えられるべきであると私は考える。
- 後期の「エンジンの科学」やA群科目の多くは単位認定されないのに興味本位で受講したが、どれも第一線の先生方に教えてもらえたのでとてもためになった。2回生でも浅く広くではあるが知識の幅を増やして、どの分野の人とでも話が出来るような人間になりたい。
- 一般教養は先生がやるきなさすぎ。研究がメインの先生方にはおこずかい稼ぎみたいになっている。そのなかでもリレー形式の授業は面白かった。やはり一回や二回だけの授業っていうのは先生にとってもやる気はいるのでは。
- 外国語は充実していましたが、それ以外はあまり得たものが無かったように思います。
- 僕は全学共通科目は刺激を受けるための場だと考えていました。授業によってはそれが叶いましたが、極端に細かい内容ばかりを講義内容にしている科目もありました。そういったコアな内容を講義に求める人もいるでしょうから、それ自体は非常に良いことだと思います。しかし、どのような講義であるか（その講義が自分の目的に合っているか）をいち早く判断することが困難であり、その点においてシラバスは改良の余地がまだまだあるのではないかと思います。
- 同じ科目でも教員によって当たりはずれがある。
- サークル活動と両立する上で、学習意欲というものを保つ努力をしなければ難しいものがあると感じた。

- いくつか面白いと思えるような授業を受けることが出来て非常に良かったと思える。ただし、多くの授業は受けたとしても体系的な理解には結びつかないだろうと思える。
- 勉強はそこそこ頑張れたけれど、それ以外のことがほとんどできなかったのが残念でした。ぼーっとしてるうちにあっという間に時間が過ぎてしまって、行動力のない自分に嫌気がさしました。
- 期待している程の講義は、無いと感じました。
- 豊富な授業数に驚いた。比較的自由に履修できたと思う。ただ思っていた以上に教官との距離を感じた。
- 授業の進め方に工夫がみられませんでした。
- 授業を自分の世界で終わらせてしまっている教官ばかりだった。
- 生徒からすると退屈な授業が多かったので、もう少し関心が持てる授業運びをしてほしかった。
- 理系科目は難しく感じたけど、勉強になりました。
- 興味のある講座には楽しく取り組みました。
- 勉強と部活との両立が難しかった。成績はよくなかったが、自分がサボったという意識はあるので、評価には納得している。
- 将来に向けた勉強に対してそろそろ真面目に取り組んでいかねばならないと思った。
- 授業を聞くだけでは理解できない部分があるので、B 群科目でもっと演習をいれていったり演習問題を配ったりしてほしいです。
- 1年間受講して強く思うことは、もっと予習や復習に熱心に取り組めばよかったということだ。単位は取れたかもしれないが、本当に理解していない科目が多いと思う。授業に関連した本を読むなどして、理解を深めることをすればよかったと思う。ただ、ノートを見直したりして、どういうことか分かったときはうれしかったことを覚えている。
- すばらしい。
- ポケットゼミを2回生以降も取れるようにしてほしい。定員も増やして欲しい。上にもあるように興味を持った学生がふるい落とされるとか、初めに出した希望だけで落とされるとかはちょっとつらい。せっかくすばらしい研究をしているなら、もっと多くの学生に知ってもらえたほうがいいのではないかな？
- 試験期間になって試験が集中して大変でした。試験結果をもっと長い時間表示してください。休講の情報が遅いです。教授の授業のやる気のなさに落胆しました。教室が暑いです。人が多すぎて座れません。
- ちゃんと話を聞くとおもしろい授業もあったが、たいていの授業は難解で熱意をもって授業に望めなかった。
- 卒業の為に単位取得のみが目的でとった授業が正直な所あったが、興味のある科目は意欲的に、あまり興味の惹かれない科目はそれなりに、と自分なりにしっかりと取り組んで、今まで持っていなかった知識を吸収できたと思う。特に、論理学という学問に触れたことは自分

の中でかなり大きな収穫だった。

○全体としてはよかったです。しかし少し気になったのは、同じ授業名でも先生によって授業内容が異なったり、単位取得の難易度が違ったりすることでした。

●理系に A 群削って専門と B 群入れる余裕を作ってほしい。

●いきなりずっと自分の専門科目ばかりやっていたら、幅のない人間になってしまうし、何より楽しくないです。でも、全学共通科目があるおかげで自分の専門以外の様々な科目が勉強できて、本当に楽しかったです。そして、いろいろな知識を得ること自体も面白いですし、その知識が他の学部の人との架け橋となることもありました。ですので、全学共通科目というのは、非常に有意義なものでした。

●入学当初はさまざまな分野を幅広く勉強し知識や教養を深めようと思っていたが、全学共通科目で興味深い講義がほとんど無かったので、なかなか勉強する気になれなかった。

●興味深いものがあってよかった。

○工業化学科の必須科目についてはもう少しなんらかの措置をしていただきたいです。

●専門以外でも、興味深い分野は数多くあり、もっと知りたいと思える分野を見つけることもできたので、その点では非常に有意義だったと思います。

●全体的にレベルが低いと感じた。

●無駄が多いような気がする。前もって講義内容を今まで以上に分かりやすく説明すべきでは？

●同じ科目でも、担当教員によって全く違う授業になるし、成績評価も全く違うので、不満は多い。また、休講が多すぎる。

●学校が楽しくない。

●授業によっていい授業と悪い授業に差がかなりあるようにおもわれる。同じ微分積分の講義でもクラスによって授業の難易度の差が激しいようにおもわれる。

●興味のあるものはやっていておもしろかったです。

●興味のある科目よりも、単位をとりやすい科目を選んでしまい、特に何も身につけなかった。惜しいことをした。

●二回生以降も、ポケットゼミを開講していただきたい、と思いました。

●大学での生活が想像以上に忙しく、もっと時間を上手に使えばよかったという反省があります。選択科目をとりあえずたくさんとったけれど、全てに手が回らず、過不足なく取るように気を使うべきでした。

●さまざまな講義があり興味深かった。授業によっては明らかにやる気の無い先生もいた。

●面白い授業はほとんどなかった。単位のために授業を受けていたようなものかもしれない。積極的な姿勢で学習しなかった自分が悪いのは分かっているが、やる気を出させるような授業が少なかったのも事実であると思う。

●勉強面ではないが、自己管理の難しさを感じた。

●先生方の興味がないのが面白くなかった。単に生徒のやる気がない、授業が自分に合わない

以上にこれのせいで全学共通科目はだめだと思う。

●どんな科目でも理解できれば楽しいし達成感があつた。ただ、自分を管理する人が自分1人しかいないので継続して勉強するということの大変さが改めてわかつた。

●高校で習った範囲がどこまでなのかくらい教員は把握しておいてほしい。自分たちが高校で習った範囲を前提に授業を進めるのはやめてほしい。(特に微積や物理学基礎論の授業)また、シラバスに書いてある成績判定の基準と全く異なった方法を採用している教員がいるので、学生がもっと気軽にこういうことを告発できる窓口をウェブ上にでも設けてほしい。

工学部の「自然現象と数学」はなぜ専門科目なのか分からない。これこそ全共の科目にすべきだと思う。各教員が自分の専門分野の宣伝のための授業にしているところがあり、本来の目的である「高校と大学の橋渡し」ができていないと多くの学生が指摘している。微分方程式の解き方、行列の計算など高校では不十分な学習に終わっているが大学では知っていて当然、という分野をもっと教えてほしい。

●nothing!

●結局は、自ら学び、自ら励んでいくことに尽きるのだと思う。全学共通科目というのは、学生を様々な学問分野へ導いていく存在であると気づいた。気づいたのはすでに前期も終わる頃。

●シラバスに詳しく講義内容が掲載されていないものは講義名や教官の専門分野で判断するしかないので一部の教官の方にはそこを改善してほしいです。受けた講義全てに不満がなかったわけでは決してないのですが、それはその講義の担当教官の全学共通科目にたいする考え方に由来するか私自身の熱意の問題であつたと思うので特に挙げませんでした。どのような講義であれ学生の側にやる気があれば何かしら得るものがあると思います。そうではなく、やる気のない学生にやる気を出させるような講義をなさって下さる教官が増えるとよいと思いました。大学とはそういう場ではなく自ら学ぶ者が来るところだ、と言われればそれまでなのですが。それでも、例えば私は理系なのですが、クラスの人のお大半はA群科目は卒業に必要なだからという理由だけで受けており、興味のある分野・科目を受講する人よりは所謂楽勝科目を受講する人が大半です。そして講義自体にはほとんど出席しません。これでは全学共通科目を設置している意味があまりないと思います。であるから前述のように思うのですが、それはやはり大学の理念とは合わないということなのでしょうか。私の運が悪かつたのか、熱意のある教官にはほとんどめぐり合うことができませんでした。

○全学共通科目の授業に対して不真面目な人が多く、授業に参加しないことは個人の自由だから構わないのですが、それで授業に参加している人に迷惑のかかる行為をしている人が多いのに困りました。(授業中の私語)

●B群科目の教員のほとんどが学生の現在の学習状況の把握をなしに授業を進めるため、何を言っているのか分からなくなる。特に専門的な用語を使われるとどうしようもないので、それについて説明するか、あるいはどの程度の知識を持っていれば良いのか明確にしてほしい。課題に対する対応をある程度丁寧にしてほしい。自分で問題を解く力は確かに重要ではある

が、どうしても解答を導き出せないことも多々あるので、そのような事態に対応するために、数学系の課題には模範解答を示してほしい。悩みとしては、これまでの学習状況の中で、果たしてこれからの専門科目についていけるのかどうか不安である。

- 各授業の学習にかかる時間が少なかった。受けてみたい授業はまだたくさんあったが、時間をかけてある程度深く学習するためにも思い切って授業数を減らすべきだった。
 - 同じ講義名でも担当の教授によって単位取得の難易度にかかなりのばらつきが見られた。選択して受講した講義なら何とか理解できるが、クラス指定となっていた場合クラスによって差ができてしまうし、2回生で履修する科目の履修要項の意味もなくなるのではないかと思うので、改善すべき点として挙げられると思う。
 - 教授の熱意にも差があるんですね。
 - 熱意を持って続けないと意味が無いです。
 - 特にA群には興味を持てる講義が少なかった。講義名と実際の授業にギャップがある授業が多いのが気になった。
 - 例えば後期では物理学実験のすぐ後に専門科目があり、実験が延長したときにはその専門科目の授業がよく分からなかったりした。今後クラス指定の科目を決めるときには専門科目との兼ね合いをもっと考えてほしい。
 - やはり、ひとコマ1時間半という長丁場であることを鑑みると、よほど面白い授業でなければ、高校の授業よりもつまらないと言いたくなってしまいます。高校からあがってすぐに授業時間というものが2倍になるというのは、かなりきついと思われる。途中で休憩を挟むとか、そういった考慮が欲しい。
 - 特に感じることはない。
 - 授業に出なくても何かしようという一見不良な選択を取れるという立場にいることがなんだか面白かった。そのせいで今大変な状況にあるが、それでもこういうのもありかなと思えるのがまた面白い。
 - 特に無し。
- 正直去年一年間はあまりやる気が出ませんでした。大学の講義形式にすぐに慣れることができず、講義内容も抽象的なものが多く興味が持てませんでした。また予備校の先生と比べて大学の教授の講義がとて密度が薄かったことも私のモチベーションが下がった原因のひとつでした。結果としてたくさん単位を落としましたが、講義以外の場所で学んだこともありました。それらのことを通じて、今は講義からたくさんのことを学びたいという気持ちになっています。去年の私は講義に遅刻することが多く、途中から聞くために内容が理解できずに興味も持てなかったもので、今年は最初から出席して、しっかり理解していこうと思います。大学生活を誰よりも満喫してやろうという心構えでがんばります。
- 空きコマを埋めるべくとりあえず授業を取ってみたら、それがかなり興味深い内容だったことが多かった。工業化学科の必修科目である基礎有機化学と基礎物理化学についても、教員の質問に対する対応が良かったと思う。

- 1 回生の間、クラス指定科目でほとんど埋まっていたことに不満を感じた。他の授業がとれないから。そもそも工学部の単位として認定してくれる B 群科目の種類が少ないと思った。
 - 大学なので、入学してからはもっと専門的なことばかり学習するのかと思っていましたが、意外に理系でも文系の内容を学習することに驚きましたが、興味のある内容が多くよかったです。
 - 自分の考え方や将来に示唆的な言葉を与えてくれた教員に会えて満足している。
 - シラバスの内容とのギャップが大きい科目も見られると思う。担当の先生方はどうしても自分の専門分野の話ばかりされるので、当たり前ではあるが。
 - A 郡科目は自分の将来進む分野とはまったく違う内容だったので新鮮であった。
 - 文系科目 (A 群) では、自分の好きな、または、興味のある科目を選べたのは、よかったと思います。しかし、将来的に学部の専門科目を勉強していく上で必要であろう科目に関しては、どれが必要なものなのか明確になっておらず、とりあえずやるだけやってみた、というのが実感です。多少なりともしんどかったですが、終わってみれば、これもいい勉強になったのかな、と思います。
 - A 群の試験が難しすぎると思った。
 - 熱意を感じられない教員が多く、とくに数学分野で教員の独りよがりが見られ、授業に出る気を奪われた。
- ポケゼミは、きつかったけど本当に楽しかったし多くのことが学べたと思う。もしまた受講する機会があるのだとしたら受講したい。理系だが、A 群科目が特に楽しかった。しかし、興味がある科目が、専門やクラス指定と被っていて残念だった。あと、単位を取ることを考えて授業を選ぶのはあまりよくないと思った。B 群科目は、受けたところであまり身に付かなかった。不可になったものもあれば、いい点数で通していただいたのもあるが、学習内容が身に付くように、日ごろの家庭学習を大事にしようと思う。
- とくになし。
 - 専門外の授業で、面白く感じたものが多かった。新しく学ぶことだったからかもしれない。
 - 専門以外の分野でも、面白い科目は本当に面白く感じた。
 - 専門的なことがほとんど何も学べなかったことによりかなり不満。結局 2 回生からは専門が入っているの、2 回生からはある程度はやる気が出るが、ほとんどの学生が 1 回生から興味・関心を持っていることに関して、教員側が何一つ配慮していないように思える。それが、1 回生で不真面目な生徒と真面目な生徒の差を生み出しているのではないか？生徒側の問題もあるであろうが、教員側も改善の余地が多々ある。よりよいカリキュラムを作ってほしい。
 - 科目間の格差が (いろいろな意味で) 非常に大きい。同じ科目を 2 回取ったら履修時期の早いもの 1 つだけが単位認定されるのは非合理的。評価が 1 番いいもの 1 つだけが単位認定されるように改善すべき。そうすることで 2 回生の間は何もすることがないという人が多少は減るはず。
 - 吉田南キャンパスのほとんどの教室が汚すぎると思います。換気もほとんどできていないよ

うに感じます。

- いろいろな科目があるのは素晴らしいが、英語など登録コマ数に制限があるのは意味不明であると思う。
- 自分の興味のある分野について（特にA群）自由に学ぶことができ、純粋に勉強が楽しかった。
- 自分が授業を受けている先生が日本や世界でトップレベルであることを考えるととても感激した。自分の知らないことに出会ったときは鳥肌がたった。
- 幅広い分野の講義があってよかった。そこが総合大学の良さだと思った。
- 工学部である僕にとって、A群＝趣味 B群＝理系として過ごすための必須道具 D群＝オマケ という印象があります。これらの中には若干の不満があったとしても（例えばクラス指定の数学科目が明らかに理学部レベルだったなど）納得することが出来ました。C群も（かなり必須にされるのは不服ですが）まあ終わりがよかったのですべてよしです。勉強における悩みなどもそれなりにありますが、それも学生の本分と考えております。ただ、卒業までに必要な単位が工学部は他学部比べてとても多いことが少し気になります。クラス指定やら必修やら専門やらを入れているうちに、取りたかった教員資格は物理的に4年では習得できなくなってしまいました。この辺を何とかしていただきたいと強く思いました。ちょっと専門科目との兼ね合いも気にしていただければ幸いです。
- 全学共通科目においては自分の専門に関わることがないであろう分野の勉強に終始していたが、教養を身につけるという点においては非常に良かったと思う。
- テストの難易度が適切でない場合が多い。
- 全体的に教室が狭い。特に理系科目は添え字の添え字とか出てくるので後ろの席では全く見えないのに縦に長い教室使うとか間違っている。あと、黒板が低い教室が多くて前の席に人がいると黒板が見えない。
- もう少しがんばらないといけないと感じました。
- 授業の内容が高校のときと比べ、覚えるための知識というより実用のもので知識としてのものを教えられた感じがした。これから社会に出て行く上で何も知らないのもそういう点が不安（法律関係や礼儀作法、常識等）。
- ドイツ語が難しすぎた。
- 英語についてですが、高校と同じ感じの授業（何かの文章についてそれを予習してきて授業で訳を答えるような授業）は必要ないと感じました。その文章についての筆者の意図を自考え班単位でプレゼンするなど、とりあえず高校ではやらないことをするのが良いと思うし、やってみたいです。英語の訳出だけなら受験を通してくさる程やったので、大学側の指導のもとでやるものではないと感じました。
- 世の中の広さを知った。
- B群が難しい。
- レポートを提出すれば通ったり、授業に出ていなくても、試験でちょっとがんばれば比較的

楽に単位をもらえることが多かったので、なんだこんなものなのかと感じた。

- 高校までの授業形態との違いに初めは少し戸惑いましたが、自分のペースで勉強する習慣が身についたと思います。
- 大学の授業、学習がどんなものなのかを知ることができました。A群では興味のある授業を受けられて良かったと思います。B群は全て難易度が高く、必死で勉強しなければなりませんでしたが、理解できたときの喜びはそれだけ大きく、またレポートなどの課題が本当に役に立ちました。C群は、英語の先生が2回生のように自分で選択できたらいいと思います。
- クラス指定が多く、意外と自由さがなかったのが少し残念だった。
- 幅広い内容の授業を提供しているが、学部指定科目などであまり思い通りの授業を履修できなかった。
- 教室のごみごみした感じが嫌いだった。
- 全学共通科目は全体的に面白くなかった。
- 授業内容を理解してなくて出席しなくても単位がとれる授業が多いと思った。
- A群では、法学系の科目をとればよかったと後悔しています。A群の履修科目が地理や経済に偏っていたので・・・。
- 大学の講義というものを学べ、基礎科目に充実した、興味深い内容を受講できて満足でした。ただ気が合わない講師もいて、内容は興味あるが学ぶ意欲がなくなってしまった。多くの科目があり、様々な人のニーズに応えることができていると感動した。
- 多くを受講した場合、時間が足りなすぎる。特にクラス指定の多い工学部一回生は、まともに全学共通科目を取れないので、単位を取りに行くだけになりやすい。
- 楽しい講義は楽しい。結局は自分しだいだとも思う。
- まあ、受講したためになったとは思いますが。しかし、どうしても成績の評価に納得いかないところもあり、しっかりと一人ひとりの生徒に向きあった授業、試験をしてほしいと思います。
- 自分のやりたい事を全学共通科目を通してより明確に知ることができた。
- 1回生での全学共通科目では、学部推奨のものを中心に受けてきましたが、2回生では、1回生の時間では受けられなかった分野を受けていきたいです。
- 特に前期の授業が高校との違いを感じ取るものとなり、今に繋がっていると思う。
- 黒板の見にくさが非常につらかったです。数学や物理などは添え字が読めなかったです。あと全体的に進度がはやく、***、***は本当についていけませんでした。先生がそれを当然のように扱い、さらさら進むのはどうかと思います。
- 自分の専門分野とは異なる内容の授業で非業に興味深いものもあった。
- 代返、カンニングなど禁止行為を平然としている学生が多くいた。管理を厳しくするには抵抗もあり、また大学側が何もしていないとは思っていないが、最低限のルールさえ守られていない現状を改善して欲しい。
- まず、学生の理解の有無に関わらず授業が進んでいくのには戸惑いました。理解してもらおうという気持ちがあり感じられませんでした。授業の教室が広すぎたりすると、黒板が見

えず教員の声も聞こえないことがよくありました。教員の方が「この授業は別にでなくていいよ」みたいなことを言うのは、本当にそうだとしても、学生のやる気をそいでしまうのでやめた方がいいと思いました。

7. 10 農学部

- 興味の無い分野の授業を受けるのが苦痛だった。確かに幅広い教養を身につけるのは重要だが、単位のためだけに嫌々受けていたのでは意味が無いのではないだろうか。
- 今まで興味のなかったことに興味をもてるようになってよかった。
- ポケゼミで瀬戸臨海実験所に行き、非常に楽しく充実した。
- 前期欲張って取り過ぎた。クラス指定必修科目には鬱陶しいものがあった。後期は慎重に講義を選んだので、一部のクラス指定必修科目以外は面白かった。
- 自分の知識の低さを思い知らされ、また一人暮らしという誘惑が多い環境で勉強するのが大変だった。体育会の部活に入っているので、それをいいわけに勉強をあきらめかけたこともあるし、家事や家の雑務で、授業に遅れることもあった。一人暮らしと新しい場所での新生活で、わからないことだらけで大変だった。しかし、親や恩師、高校時代の友人からの励ましや、助けで、徐々に自分のペースが作れるようになり、今では、何とか勉強と部活を両立できている。やっぱり両方がんばってよかったです。今は大変充実した日々を過ごしています。
- 様々な分野の話が聞けて、とても有意義な授業だった。
- 幅広い分野の講義を受講したが、これとっておもしろいものはなかった。
- 楽しい授業や役に立つ授業がないわけではないが、授業料の高さを考えるとどうしても不満が残る。授業料に値するだけの授業群を受講できたとは思わない。
- 一般教養の授業をとって、これは本当に役に立つのだろうか、と思ったことが何度かありました。専門とも結びつかないし、普段の生活とも全く関係のない知識。それよりは専門の授業ばかり受けたほうが良いのかもしれない。一度そうは思ったものの、やはり色々なことを知りたいという知識欲が先行してしまい、役に立たなくても別にかまわない、と思うようになりました。逆に、専門の知識しかなければ視野が狭くなってしまわないか、と考えるようになり、現在積極的に一般教養の講義を受講しようと思っています。
- 一般教養は一般教養なのだからもう少し自由度を増して、専門科目で生徒の関心をひきつけるスタンスにもっていかればありがたいかなと思った。
- 高校とは全く内容も形態も異なった授業が多く、とても興味深く感じました。特に哲学系の授業では今まで考えてもみなかった抽象的、精神的なことを深く学ぶことができ、自分にとって、とてもいい刺激となりました。
- 興味をそそる授業になかなか出会えなかった。
- 親元を離れ一人暮らしになったので、自分への強制力が事実上なくなった。その中で、自分で勉強をしようという自覚を持つことが非常に大切だと思った。

- ドイツ語の先生は厳しかったが、その分勉強に力が入り熱心に取り組むことができたのでよかったと思う。
- 私は普段、他の学生に比べあまり勉強しているとは言えません。そのため授業を聞いてもわからないことが多くてストレスがたまることもあります。テスト前などにまとめて勉強すると、ここはこういうことだったのか、と、授業で聞いたことがわかってきて楽しかったです。
- 思っていた以上に選択肢が広く驚いた。多くのことが学べる環境にいるというのは嬉しいことだった。教室を間違えてしまうこともあったが、そうでもしなければ目もくれなかったであろう講義を受講することになり、かえってよかったと思っている。
- 他学部の授業にも積極的に参加することで広い範囲の知識を得られた。また、語学のおもしろさに気づいたので授業は終わったが自習を継続していきたい。
- 単位の事ばかり考えて、興味のある授業を取れなかったような気がする。
- 英語の授業に疑問を感じた。英語の運用能力の向上に向けた授業を受けたかったように思う。
- 予備知識が無い生徒が受講していることを知ってはいても、時間的な都合からペースを落とす事もできず、かといって内容を減らしすぎると折角勉強する意味がなくなってしまうので、なんとか教科書で予習復習をしてついてきてもらうしかない、と嘆いている先生がおられました。熱意のある先生で、進めかたも分かりやすく、授業で言われたことは理解できるのですが、それをどう応用できるのかはよく分かりませんでした。なので、時間を多く費やしそのような科目は4期間に分けたり、入門科目を作ったりして、時間に縛られず授業できればいいなと思いました。また、やはり京大だからなのか、先生独自の論を授業で展開する方もおられて、今言われている事に納得するだけでなく、自分で考えてそれが信じるに値するものかを判断する必要があることを教えられました。京大は自由な学校といわれていますが、それが学生にとってだけでなく、教授たちにとってもある程度自由な学校であれば良いと思っています。
- 大学は自分で勉強をしないと何も得ることができない
- シラバスを読んでいると興味深そうな授業ばかりなのに、実際受けてみるとまったく面白くないという授業が多すぎる。入学当初は理想を抱いていたが、今は将来がまったく見えない。なにをしたいのかわからない。
- 授業に出ることも大事だが、自主学習を積極的にすることが大事だと思った。
- 高校までの授業とは異なり、もっと詳しくいろいろな話が聞けたのが非常によかったです。語学（特に第2外国語）の勉強にしんどさを覚えました。それ以外はだいたい満足しています。ただ、英語などでクラス指定によっては勉強量に差が出るようで、そこが釈然としません。
- 様々な教授の研究内容をうかがえたのはいい刺激でした。
- もっと勉強しなければならないと感じた。
- 大学に入ってからさまざまな経験ができたが、勉強に対するモチベーションは低下したと思

う。

- 受験が終わって気が抜けたのも一因かもしれないが勉強に身が入らなかった。
- なんとなく、やる気を感じられない教員があまりに多すぎる。授業時間が無駄になると思ったので出席を止めた授業が数多くあった。
- 楽しかったです。以前までは専門しか見ていなかったのですが、予想以上に視野を広げられました。ただ、もっと工夫の余地がある授業は多かったように思います。
- 自分の将来的な専門にかかわらず、幅広い教養としての全学共通科目は極めて重要であると思います。このシステムは今後もぜひお願いしたいとともに、上回生になっても気軽に受講できる環境も整えていただきたいです。ポケゼミが1回生前期のみで終わるのが非常に残念です・・・(笑)
- 京大はたくさんの授業が選べてとても良かった。
- 数多くの科目の中から、自分の興味のあるものだけを選んで学習できるので高校までの受身の授業と違って自分から学習に取り組むことができた。
- 大学で学ぶのに、過剰に厳しい成績評価は必要ないと思う。本人の意思、意欲のない勉強など何の意味も無い。私が言いたいのは1つ。学生のニーズに応えるような授業をすることが全学共通科目には必要で、そしてニーズに応えられているかどうかは、生徒の単位取得率で判断できるということだ。もしも生徒のニーズに授業内容が合っていれば、生徒の授業内容への関心も高くなり、自然と皆単位を取れるはずだ。もしも生徒のニーズに授業内容が合っていないければ、例えば生徒が出席点を取るために毎回授業に出ようがテストのために勉強しようが、根本的に興味が薄いので勉強がはかどらず、結果単位を落とすことになる。そのため、私は教員評価の指針として各授業の生徒の単位取得率を重要視すべきだと思う。
- 熱意のなさ。学生・教授共に。
- 生化学系の授業が充実していて、本当によい刺激を受けた。
- 大学受験の際に学習したような偏った勉強ではなく、人生に有益な知識を得ることのできる大学の授業だと思った。京大の授業を受けることができたことに誇りを感じている。
- もっと授業にでて話を聞けばよかった。もったいないことをしました。
- 自分の専攻したい分野を研究するためには、たった2年の全学共通科目では基礎にもならないのだろう、ということ。勉強しなければならぬ膨大な知識が存在するという。以上の2点を実感しました。そして自分の学部専門に全く関連しない講義でも、教養としてとても興味深かったです。
- 全学共通科目はあまりがんばらなくても要領よくすれば単位は取れると思いました。あまり興味もてる科目がなかったです。英語の授業の内容をもっと意味あるものにしてほしい。
- 特になし。
- 無し。
- 小テストをして欲しい。
- おもしろい授業をする先生が少ない。講義が面白いと毎回出る気になる。

- 全体としてそこまで面白いというものは少なかったが、中には非常に興味深いものもあり京大に来た甲斐があった。
- フランス語の授業を英語で説明されるのは想定外でした。英語力の必要性を感じました。授業担当の教授も十人十色で、生徒受けがよかったり、距離の近い方もいれば、生徒はお構いなしに授業するような方もいました。
- 本を読むだけでは学べないようなことを授業で学べてよかったです。
- 携帯から明日の休講を調べられない。抽選などの周知が徹底していない。部屋の大きさに無理がある。通年の授業を途中でやめれるようにしてほしい。専門の授業と学部提供の授業との時間割の調整をつけてほしい。
- 教員によって差がありすぎるような気がした。また英語や中国語などの語学が1回生の授業があまりにも適当だったように感じた。単位など関係なくもっと身につく、あるいは社会で活かせる授業をしてもらいたかった。
- 様々な知識を吸収できたことは刺激になった。
- まあそれなりに充実した時間が過ごせたと思う。
- 大学での勉強と高校までのそれとはどう違うかを身をもって経験した。
- 自分の知識の範囲ではついていけない授業を受けているときは、とても不安を感じました。しかし、知らない事を知れたり、既に知っていた知識と知らなかったこととの繋がりに気づけたときは喜びを感じることができました。
- 専門外の講義を受講することで知識の幅が広がったと思います。
- 結局は自分のやる気ということが分かった。社会に出たら当たり前のことだが・・・。
- 最先端の先生方の意見を聞くことができとても興味深かった。数学の相談室も親切に指導してくださった。
- あまり得たものがない。
- 毎年人気がある先生は、人気があるだけの理由、つまり教え方の良さなどがあると思いました。
- 隣の広い教室での授業は比較的空いているにもかかわらず狭い教室で定員ぎりぎりでの授業するのはやめてほしい。実際に倒れた人もいてたしもっと早急に対応してほしい。
- 勉強するには動機が必要ということ。
- 五限の授業は難しい授業も多かったが基本的に学生の方を向いてくれる教員が多く、理解できないところは質問したり自分で勉強しようという気になった。そのため楽しい授業が多く、理解できなくても有意義だった。授業に遅刻してくる教員や休講が多い教員もいて残念だった。とくに遅刻のほうは、ひどい先生は研究室と教室が近いにもかかわらず毎回20分遅れてくる人もいた。やる気のある先生に対してはこちら側としても勉強しようという気にはななかった。図書館等勉強する場所が多いのは非常によいと思う。あと、最後に学生のカンニングの多さに失望した。京都大学はもっとレベルの高い学生がいると思っていただけにショックだった。カンニングしても平気のような風潮があるのはどうにかしてほしいと思う。

- 講義に一回も出てないのに単位を取れる科目があるというのはどういうことなのか皆目見当もつきません。
 - 大学における勉強の進め方を学ぶことができてよかった。
 - 高校までとは違った分野や自由さの中でのびのびと勉強できることに喜びを感じるようになりました。
- いろいろな自分の興味がある分野を自由に履修できたと思います。広い視点を持つという意味でよかったと思います。
- 欠席、遅刻にうるさすぎる。みんながまじめに出席して、まじめに単位を取っていただくだけの授業ならあのつまらん東大とかいう大学と同じ。

8 まとめ——「対話を根幹とした自学自習」に向けて

平成 19 年度 2 回生進級時アンケートの結果は以上である。

まず、統計的結果（自由記述以外の部分）についていえば、「はじめに」でも述べたように、前回（平成 18 年度）、前々回（平成 17 年度）の結果と顕著な差はみられなかった。したがってこれらの結果は、統計的には、現在の京都大学の学部学生が全学共通教育に対して抱いている意見をほぼ代表しているとみて差し支えないであろう。この統計的結果のもつ意味については、できれば前々回（平成 17 年度）の報告書（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pdf/link/link0241.pdf>）をご参照いただければ幸いである。

最後に本報告書のまとめとして、（7 章で全文を紹介した）自由記述の内容を参照しながら、京都大学の教育の基本理念にある「対話を根幹とした自学自習」ということ——それは京都大学の全学共通教育においてどの程度実現できているのか、また、もしも十分に実現できていないとすれば、その実現を阻んでいる要因はなにか——について、限定的ではあるが 3 つほどの角度から若干の考察をおこなってみたい⁵。なお、自由記述の引用にあたっては、●は男子学生、○は女子学生の回答を意味し、各記述の末尾の【 】内に所属学部を示した。

第 1 に、「対話」そのものというよりも、「対話」——ここでは教員と学生との——を成立させるための外的な前提として、全学共通教育のシステムにかかわる問題、具体的にはクラス指定制度についてとりあげたい。クラス指定制度について自由記述欄でなんらかの意見を述べた学生は計 18 名（うち 16 名が理系学部生）であったが、ここではその中から 2 名の回答を紹介する。

○鬱々とした一年間でした。学部専門科目の予習に追い立てられて、受けた講義を潰して予習時間に充て、受けた授業を見つけては、クラス指定の語学によって阻まれて、自分の好きな分野のものを選択しようにも、学部によって指定された分野の単位数を数えると、取っている暇はないと考えて、何度もあきらめた一回生の春。……語学や選択必修科目のクラス指定というものは、学生が自らの一番興味のある、一番受けたと思っている講義を取るに当たっては、足枷以外の何者でもない、とさえ思えたものでした。【医】

●工学部などでは、B 郡のうち単位認定されるものがかなり限られていた。このため、時間的にも自分の興味のある科目が履修できなかった。本気で転部を考えた。今でもその思いが消えることはない。またクラス指定というものがあつたため、週に 1 コマしか開講されない授業に出ることができなかった。……専門分野なんていくらでも勉強できる。全学共通科目はい

⁵ なお前回（平成 18 年度）の報告書（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pdf/link/link0268.pdf>）の「まとめ」では、同様に学生の自由記述を参照しながら、京都大学の「自由の学風」の伝統に代表される学問の自律性と、現在の高等教育改革の基本的な方向性をなしている広い意味での成果主義とのあいだに生じるジレンマについて考察した。できればこちらをあわせてご参照いただければ幸いである。

ろんな興味ある科目にふれることで視野を広げるためにあるのではないのだろうか。そのあたりをよく考えてもらいたいと思う。興味がある授業を受けられないということは一番あってはならないと思う。【工】

いうまでもなくクラス指定制度は、各学部の教育目標・教育理念に基づき、各学部のカリキュラムの一環として全学共通教育に組み込まれているものである。その限りで、クラス指定制度の存在意義それ自体については、少なくとも本報告書では議論する余地はない。しかしながらそのことは、現行のクラス指定制度の実施・運用体制（たとえば、時間割の組み方やクラス指定以外の各群科目の単位認定との関係など）に何ら問題が存在しないということを保ずしも意味しない。上に紹介した学生の記述は、まさにこのような実施・運用体制のレベルでの問題の所在を指摘したものと解釈することができる。

これらの問題を解決へ導くには、各学部がどのような教育理念に基づき、どのような意思決定過程を経てクラス指定制度を実施・運用していくのか、そしてその実施・運用体制を全学共通教育のシステムの中にどのように位置づけていくのかについて、関係者のあいだで十分なコミュニケーションを経たうえでの合意を形成していく必要があると考えられる。その意味では、ここでも「対話」——ここでは主として教職員のあいだの——が必要とされているのである。

第2に、授業の最終段階における教員と学生との「対話」ともいうべき、成績評価にかかわる問題をとりあげたい。本報告書2章でも述べたように、全学共通科目の成績評価に納得できない思いを抱いている学生は、必ずしも多数ではないが、つねに一定数存在する。自由記述欄で成績評価についてなんらかの意見を述べた学生は計16名であったが、ここではその中から、とくにレポートの評価において、教員との「対話」を求めた2名の回答を紹介したい。

●教育の場で生徒に対して学問の興味や好奇心を持続する一つの方法として成績評価はかなり重要であると考え。その際、たかがレポート一枚で半年の講義を踏まえて成績を評価する科目において、1ヶ月後に思いもよらない成績が返ってくる。……教授からのコメントは当たり前だが、「優」・「良」・「可」・「不可」のみ。それではあまりにも手抜きというか、潜在的に学問を追及しようとしている学生に対して悪影響である。もちろん成績だけにこだわる必要はない。しかし、教育の場においてこのようなある意味、学生に対する軽視した見方をなくすには成績の詳細情報の提示、教授自身のコメントを伝達する必要性が今後の潜在的人材育成にとっては重要なのではないだろうか。【経】

●一つ、要望がある。それはレポートに対する返信だ。どうもレポートが一方通行になっていて、それが悲しい。そもそもレポートを提出する目的が達成度や理解度を見るものであれば、それに続く指導も必要ではないのだろうか。レポートで自分の考えを述べる時、なかなか緊張する。それと同時に幾ばくかの興奮も覚える。これらは創造行為に連なる心の震えからくるものだろう。教授の方々から見れば恐らく稚拙なものであろう、しかし学生が懸命に

考えた将来の萌芽というべき考察を、何も世話をせず放っておいてよいのだろうか。芽が萌出づる前から果物を実らすまで世話をすれば、とてもよい収穫が得られる。……そのことを重く見てレポートに対する返信を求めたい。しかしながらこの作業は、先生方に対し非常に労力を要するだろう。そのため、希望者制にしたり、出席回数が〇回数以上のものに限り返信要請を認めるなど、労力を極力減らす努力を、この制度を加えるにあたってあわせて考えていただきたいと思う。【文】

成績評価（あるいはそれに基づく単位認定）が単に授業の「結果」であり、教員との学生との「対話」が（たとえそれまでに存在していたとしても）その段階ではすでに終結してしまっているといえ、逆にいえば、こうした意見の存在は、成績評価が教員と学生との「対話」の単なる終結点ではなく、それが同時に新たな「対話」の開始ともなりうる可能性を指摘したものと解釈できる。

しかしながら、レポートに限らず、成績評価における詳細情報の開示や学生へのフィードバックについては、それが望ましいことについてはあまり異論がなくとも、その実現に至るにはつねに教員の負担の問題がネックとなってきた。上掲の后者の学生の提案は、その点でもかなり現実的な解決策を含んでおり、検討に値するのではないだろうか。

第3に、京都大学の最も基本的な理念である「自由の学風」とも深くかかわる「自学自習」という教育理念と「対話」との関係について考えてみたい。ここではまず、教員にとってある意味では「理想的」な学生像を呈示していると思われる記述を紹介しよう。

●予想以上に興味深い授業が多く、知的好奇心を満たしてくれた。自分が言うべきことではないかもしれないが、「授業が面白くない」という感想を抱く原因は、そのほとんどが学生の熱意不足に起因するのだと思う。受講する授業についての些細な予備知識を蓄える試みすら怠り、空っぽの脳みそに全ての知識を与えてくれる予備校のような授業を大学に来てまで求める学生たち。こうした姿勢を叩き直していくこと以外に、真に有効な改善策はないように思う。【経】

●私は大学での学習がそれまでよりも自主性を求められるものだと感じ、ただ講義を聞いているだけでなく、学習内容についてしっかりと自分で考え、また、わからないことやより深く知りたいと思ったことについて講師の方に質問したり、友人と議論したり、専門書を読んだりすることが以前よりも多くなりました。そして、そのようなことを実行する中で、自主性を求められ、自由に学ぶことのできる学習環境においては、とても強い興味や関心が必要不可欠なのだと改めて感じました。【理】

しかし残念ながら、このように「自学自習」の理念をすでに体現している学生は少数であり、それに対し、本報告書3. 2節「『不満だった科目』とその理由」、6章「今後の全学共通教育へ

の要望」、そして7章の自由記述欄でも繰り返してみられるように、学生を教育するにあたっての教員の「熱意」や「スキル」の不足を指摘し、それらを要求する声は枚挙にいとまがない。次のような意見のほうが圧倒的多数であると考えざるをえないのである。

- どのような講義であれ学生の側にやる気があれば何かしら得るものがあると思います。そうではなく、やる気のない学生にやる気を出させるような講義をなさって下さる教官が増えるとうよいと思いました。大学とはそういう場ではなく自ら学ぶ者が来るころだ、と言われればそれまでなのですが。【工】

こうした状況に対して、性急な解決策を見出すことは困難であろう。先述のような「理想的」な学生像をすべての学生に対して期待することは現実的ではないし、他方で、学生が要望する教育への「熱意」や「スキル」——それらの言葉がそもそも具体的に何を意味するかも大いに議論の余地のある問題ではあるが——の向上をすべての教員に要求することも、おそらく多くの困難をとまなうだろう。しかしながら少なくとも、教員と学生との（あるいは教職員のあいだでの）持続的な「対話」——そこには、先に述べた（クラス指定制度や成績評価のような）システムや制度のレベルの問題をめぐる「対話」も当然含まれる——を試行錯誤しながらも進めていくことの先にしか、この難問からの出口——「自学自習」の理念の体現——が見出せないことも、またたしかであるように思われる。

そしてそのような「対話」の出発点となるのは、教員の視点からみれば、自らの学問の根本動機、あるいは研究者としてのアイデンティティの原点に今一度立ち返り、それを教育という場で提示するという事に尽きるのではないだろうか。次のような学生の記述は、そのような「対話」の出発の可能性を垣間みせてくれる。

- 今思うと、一年を通してのゼミを選択したことが自分にとってすごくプラスになった。興味を持ったことを自分の手で調べる大変さと楽しさ、自分の意見を発表するという経験、先生の経験に基づく含蓄のある話やただ面白い話をたくさん聞いたこと、思い出すと懐かしい。先生の話をするときのあの知的好奇心に満ちたキラキラした眼に、学者のあるべき姿を見た。自分の好きなことをとことん追求すること、それが僕がこの大学ですべきことなんだ、ということを思い知らされた。【文】

2 回生進級時アンケート

ここは、****さんの My Page です。

貴方はこの1年間の大学生活を通じて、京都大学の教育に対してどのような感想を持たれたでしょうか。1回生時の全学共通教育を中心とした学習に対し、どのように感じあるいは考えたか、率直なご意見をお聞かせください。本アンケートは今後の全学共通教育の改善にあなたの意見を反映させるための重要な調査です。4月30日(月)までに必ずご回答をお寄せいただきますよう、お願いいたします。なお、本アンケート調査結果は、上記目的以外に使用することはなく、回答者個人を特定するようなことは決していたしません。WEBを利用した回答に多少の不安を抱かれる方もおられるかと思いますが、この場合、紙ベースでのご回答でも結構ですので、教育推進部共通教育推進課窓口まで申し出てください。

問1 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在までに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間(授業の予復習や學術書・教養書の読書を含む)がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください(学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください)。

(学習意欲) 5. 非常に意欲あり 4. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない
2. あまり意欲なし 1. まったく意欲なし

(作成例)

時期	学習意欲	授業出席 コマ数/週	授業外学習 時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席 コマ数/週	授業外学習 時間/日
入学当初	5	15 コマ	1.5 時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開始	4	4 コマ	3 時間
後期半ば	4	〃	〃
現在	1	12 コマ	〃

*あまり深く考えず「平均」「おおよそ」で記入してください

*現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

問2 1回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします。

A. 全体として、自分の成績評価に納得していますか。

- 1 納得している 2 どちらかといえば納得している
3 どちらかといえば納得できない 4 納得できない

B. A. で3または4を選んだ人にお尋ねします(1または2を選んだ人は問3に進んでください)。成績評価に納得できなかった理由は何ですか。あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 成績評価が厳しすぎる
 2 成績評価が甘すぎる
 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていなかった

4 成績評価の基準・方法が不公正である

5 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～5から選択）（ ）

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A（満足した科目）

あなたが特に満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの一つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

1 授業の内容が興味深かった

2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた

3 授業の進め方に工夫がみられた

4 担当教員の熱意を感じた

5 成績評価の方法や結果に納得できた

6 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）（ ）

（以下、科目2、3も同様）

B（不満だった科目）

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの一つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

1 授業の内容に興味を持てなかった

2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった

3 授業の進め方に工夫がみられなかった

4 担当教員が不熱心だった

5 成績評価の方法や結果に納得できなかった

6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった

7 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～7から選択）（ ）
（以下、科目2、3も同様）

問4 あなたは入学当初、京都大学の全学共通教育に対して、次の各項目をそれぞれの程度期待していましたか。

	期待していた	どちらかといえば期待していた	どちらかといえば期待していなかった	期待していなかった
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生どうしの交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手がかり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

問5 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった |

問6 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるものすべてに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 特に要望はない
- 2 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 3 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 4 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 5 授業にもっと熱意をもってほしい
- 6 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 7 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- 8 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 9 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～9から選択）（ ）

問7 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。



平成 19 年度
2 回生進級時アンケート
報 告 書

平成 20 年 10 月 発行

編集 京都大学高等教育研究開発推進機構
京都大学高等教育研究開発推進センター
・全学共通教育カリキュラム企画開発部門

発行 京都大学 教育推進部共通教育推進課
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
Tel 075-753-6513
